

2014





「子どもゆめ基金」について	1
「子どもゆめ基金」の概要	2
「体験の風をおこそう」運動	4
平成25年度助成活動事例	
○子供の体験活動	
【自然体験】	
・佐世保市子連「少年の船」	6
・自然体験活動プログラム 第7回デフ・メロウ・キャンプ	8
・自然体験活動指導者のためのリスクマネジメント研修会	10
・体験しよう！雪あそび	12
【科学体験】	
・親子で楽しむ科学実験	14
・夢は音速超え！？モデルロケット発射実験教室	16
・レッツチャレンジ！サイエンス	18
【交流体験】	
・車いすテニス・ジュニアキャンプ	20
・高齢者と子どもたちで作る地域の安全・安心マップの作成事業	22
・第4回こどものまち「ミニかぬま」	24
【社会奉仕】	
・海にやってきたちゃおレンジャー	26
【職場体験】	
・おしごとなりきり道場	28
○子供の読書活動	
【読書】	
・子どもの心を育てる「読み聞かせ講座」	30
・ようこそ、絵本の森	32
・連続講座 絵本を学ぶ・絵本を愉しむ 「アメリカ絵本の黄金時代2・3」	34
絵本専門士養成講座	36
○教材開発・普及活動	
・親子で楽しむ山登り	38
子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ	40
子どもゆめ基金ガイドの活用方法	41
平成25年度普及啓発事業の事例	42
申請・採択状況	44
子どもゆめ基金へのご協力を 「子どもゆめ基金」へ寄附いただいた皆様	45

「子どもゆめ基金」について

「子どもゆめ基金」は、衆議院・参議院の超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子供の未来のために有意義な基金の創設を発意し、平成13年4月に創設されたものです。

かつての子供たちは、自然の中や地域において様々な自然体験・社会体験を日常的に積み重ねて成長する機会に恵まれていました。しかしながら、今の子供たちをめぐる環境は、心や体を鍛えるための負荷がかからない「無重力状態」であるとともに、保護者の経済力や保護者自身の経験の多寡、学校の判断によって、体験活動の機会に「体験格差」が生じているとの指摘もあります。(平成25年度中教審答申より)

体験活動に関する調査((独)国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する

調査研究」「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」)では、「子供の頃の体験活動が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い」、「体験を多く行っている青少年ほど、他者への思いやりや積極性などの自立的行動習慣が身についており、自己肯定感も高い傾向にある」など、子供の頃の体験は、その後の人生に影響することが示唆される結果が出ています。

体験活動・読書活動の推進に向けた様々な取り組みが求められている中、子どもゆめ基金は、未来を担う夢をもった子供の健全育成を推進するため、地域の草の根団体等が実施する様々な体験活動や、特色ある新たな取り組み、体験活動・読書活動の振興を図る取り組みの裾野を広げる様な活動を中心に、支援を行っています。



「子どもゆめ基金」の概要

助成金の交付

◆ 助成の対象となる活動

- ① 子供の体験活動
 - ・ キャンプや自然観察などの自然体験活動
 - ・ 科学実験教室等の科学体験活動
 - ・ 文化・芸術、スポーツ等を通じ交流を目的とする体験活動
 - ・ 清掃活動等の社会奉仕体験活動
 - ・ 地域の商店街・農業・漁業等の職場体験活動
 - ・ 子供の体験活動の指導者養成 など
- ② 子供の読書活動
 - ・ 読み聞かせ会、読書会活動
 - ・ 子供の読書活動の振興を図るフォーラムの開催 など
- ③ 子供向け教材開発・普及活動
 - ・ インターネット等で使用可能なデジタル教材を開発し普及する活動



◆ 助成の対象となる団体

青少年教育に関する団体（公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人、特定非営利活動法人、法人格を有しないが青少年のために活動する団体）



● 助成金の額と審査方法 ●

子どもゆめ基金では、体験活動等の分野において実務経験を持ち、青少年教育に高い識見を有する委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、審査を行います。

その審査にあたっては、各団体から提出された申請書を専門的見地から合議により評価し、採択する活動及び助成金額を決定します。



理事長

①諮問

④答申

審査委員会

②付託

③報告

専門委員会

自然体験活動
専門委員会

科学体験活動
専門委員会

交流体験活動
専門委員会

社会奉仕・職場・
その他の体験活動
専門委員会

読書活動
専門委員会

教材開発・
普及活動
専門委員会

普及啓発

子どもゆめ基金では、子供の体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発を行っています。

◆ 普及啓発事業

- ① 少年の主張全国大会
- ② 子どもの読書活動推進フォーラム
- ③ 読書と体験の子どもキャンプ
- ④ ミクロネシア諸島自然体験交流事業
- ⑤ 日中韓子ども童話交流事業
- ⑥ 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業 など



「体験の風をおこそう」運動[®]

「体験の風をおこそう」運動とは

近年、社会が豊かで便利になるなかで、子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少している傾向にあります。「体験の風をおこそう」運動は、子供の健やかな成長に、体験がいかに大切かを広く発信し、社会全体で体験活動を推進する機運を高める運動です。

青少年期の体験が大切な理由とは

- 子供の頃に、家庭や地域などで様々な体験をしたほど、大人になってからの資質・能力が高い傾向にあります。
- 「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」と回答している子供の方が、学力調査の平均正答率が高い傾向にあります。

※詳しくは次のページをご覧ください。



「体験の風をおこそう」運動に参加してみませんか。

(1) 体験の風をおこそう推進月間事業

体験の風をおこそう運動推進委員会では、毎年10月を「体験の風をおこそう推進月間」と定め、事業統一日（平成26年度は10月25日（土））を中心に、全国各地で子供たちやその家族と一緒に体験できる機会と場の拡充に努めています。

そこで、全国の青少年団体等に呼びかけ、10月に「体験の風をおこそう」運動に賛同して実施していただける事業を募集しています。エントリーは「体験の風」ナビゲーション（<http://taiken-suishin.jp>）をご利用ください。

(2) 子ども体験遊びリンピック

体験の風をおこそう推進月間事業のうち、特に競技性のある体験活動を幼児、小学生、中学生、親子等を対象に実施する事業を「子ども体験遊びリンピック」として併せて実施しています。

(3) 上記(1)または(2)の事業に参加いただける団体には、希望により「普及啓発ちらし」や「のぼり旗」を、また(2)の事業の参加団体には、当委員会の松本零士委員長（漫画家）がデザインしたメダルと賞状を差し上げています。

また、これらの事業に関する印刷物等には本運動のロゴや、応援団（ガチャピン・ムック）の画像を使用することができます。

<普及啓発ちらし>



<のぼり旗>



<メダルと賞状>



<ロゴ>

「体験の風をおこそう」運動[®]



←エントリー方法等の詳しい情報は、当機構のホームページにある左記バナーからご覧になれます。

<応援団画像>



ガイドブック 「体験・遊びナビゲーター」



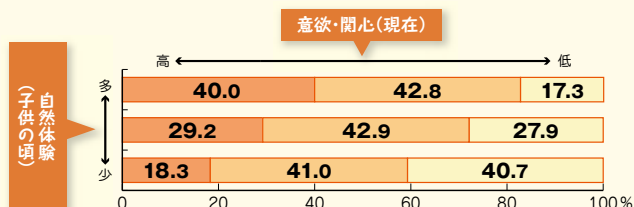
当機構では、自然の中での体験や遊びを紹介したガイドブック「体験・遊びナビゲーター」を作成しました。ホームページからダウンロードできます。

子供の頃の体験は豊かな人生の基盤になります！

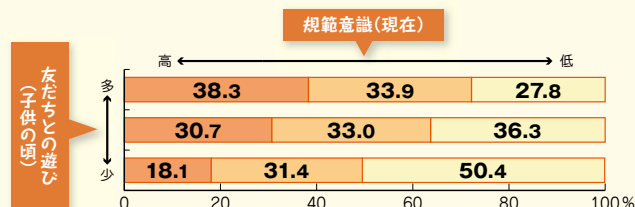
子供の頃の様々な体験が豊富な人ほど、大人になってからのやる気や生きがい、モラルや人間関係能力などの資質・能力が高い傾向にあります。

子供たちの健やかな成長には普段からの、友だちとの遊び、お手伝いや地域での活動などが大切です。

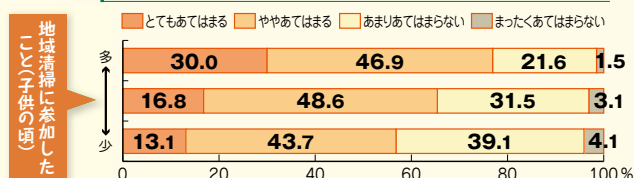
子供の頃の「自然体験」と現在の「意欲・関心」との関係



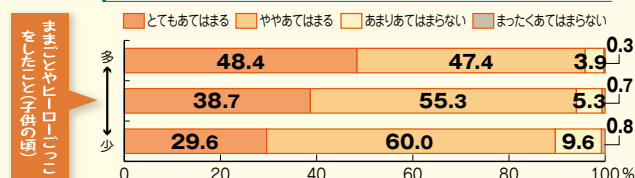
子供の頃の「友だちとの遊び」と現在の「規範意識」との関係



経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい(現在)



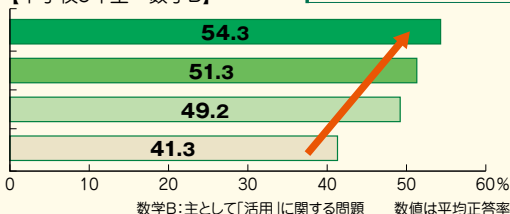
電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う(現在)



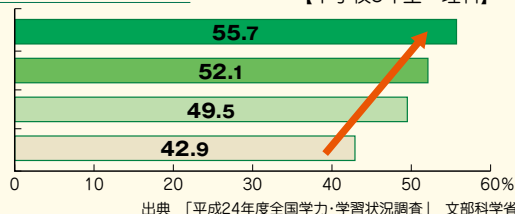
出典 「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」 国立青少年教育振興機構 平成22年

「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」と回答している子供の方が、学力調査の平均正答率が高い傾向にあります。

【中学校3年生 数学B】



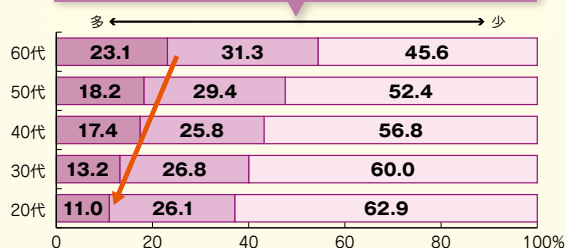
【中学校3年生 理科】



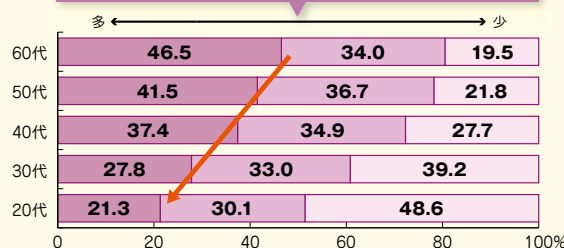
出典 「平成24年度全国学力・学習状況調査」 文部科学省

子供たちが、自然のなかや、友だちと遊ぶなどといった体験の機会が減少しています。

中学生の頃に海や川で貝を採ったり魚を釣ったりしたこと推移



小学校4～6年生の頃にすもうや、おしくらまんじゅうをしたこと推移



出典 「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」 国立青少年教育振興機構 平成22年

体験の風をおこそう運動推進委員会 構成団体

ガールスカウト日本連盟 国立青少年教育振興機構 自然体験活動推進協議会 全国公民館連合会 全国子ども会連合会
 全国スポーツ推進委員連合 全国ラジオ体操連盟 日本キャンプ協会 日本子守唄協会 日本体育協会日本スポーツ少年団
 日本PTA全国協議会 日本ユースホステル協会 日本レクリエーション協会 ボーイスカウト日本連盟

体験の風をおこそう運動推進委員会事務局（国立青少年教育振興機構総務企画部） 〒151-0052東京都渋谷区代々木神園町3-1
 Eメール taikennokaze@niye.go.jp 電話番号 03-6407-7621

佐世保市子連 少年の船

■活動期間／7月26日(金)～7月28日(日) 2泊3日 ■活動場所／佐世保市宇久町

■募集地域／長崎県佐世保市内

■募集対象／小学生(4～6年生)と中学生

■募集方法／チラシ(配布先:佐世保市内小中学校)

■実施団体名／佐世保市子ども会育成連絡協議会 ■構成員数／11人

■連絡先／長崎県佐世保市保立町12番31号 佐世保市総合教育センター内
TEL 0956-76-7374 FAX 0956-76-7375

活動のねらい

- ・子供たちが、美しい自然の中で、野外活動やキャンプ生活における団体行動を通じ、自立友愛、共同の精神を身に付けてもらうことをねらいとしています。
- ・宇久島の海の文化が息づく「宇久宝島」で、自然の美しさや、歴史を「見て、聞いて、感じる」体験型学習を通じ、宇久島の魅力を発見してもらいたと思います。
- ・地元の新鮮な魚のさばき方を指導していただき、食育の大切さを体験させます。
- ・佐世保市本土と宇久島の子供たちが一緒に活動することにより、両地域の子供たちの交流と友情を育みます。



燃えろよ 燃えろ♪(キャンプファイヤー)

活動のポイント

プログラム	主なポイント
野営、飯ごう炊さん	いろいろな学校、学年の子供たちが、テントでの野営や飯ごう炊さんを通じて、規律と共同生活に慣れ自立友愛、共同の精神を養う。
宇久島の自然体験、歴史探訪	定置網漁の体験等を通じ、宇久島の自然や歴史について勉強する。
地元の子供たちとの交流体験	宇久島の綺麗な海での海水浴やバーベキューなどの体験活動を通じ、本土と島の子供たちの交流を深め、友達をたくさん作り友達を大切にすることを養う。

安全対策・健康管理

- ・短期傷害保険に全員を加入させるとともに、事前に現地の消防団や警察などに行事の内容を連絡する。
- ・悪天候時は、野営を中止し福祉施設での宿泊に変更するなど、雨天時のプログラムを用意する。
- ・フェリー乗船中や車での移動中、海水浴、野外活動中は、指導者とスタッフが見守りを行う。
- ・アレルギーを持つ子供たちへの配慮を行う。
- ・宇久島の活動には看護師を同行し、休日診療所の利用手続きを行う。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
7月26日	09:30	佐世保鯨瀬埠頭集合・団結式
	10:25	フェリー出発
	13:30	宇久島到着・オリエンテーション・対馬瀬灯台・浜方ふれあい館見学
	15:00	大浜海水浴場
	16:30	飯ごう炊さん・キャンプファイヤー
	20:00	宿泊所(班長会議)
7月27日	06:00	起床
	06:30	ラジオ体操・朝食
	08:30	島のお母さんによるお魚さばき教室体験・昼食
	13:30	大浜海水浴場
	17:00	宇久島の子供たちと交流・バーベキュー・ライブコンサート
	20:30	宿泊所(班長会議)
7月28日	06:00	起床
	06:30	ラジオ体操・朝食
	08:30	大浜海水浴場
	12:00	昼食・フェリー帰港
	17:00	佐世保鯨瀬埠頭到着・解団式

特に工夫した点

- ・宇久島は近年佐世保市に編入され、その素晴らしい自然を同市内の子供たちに知ってもらうことを意識しました。
- ・島では、日常と違いテレビやゲーム、ネットもない不便な状態をつくり、その中でそれぞれが遊びを見つけ、会話を楽しみ友達を作るきっかけとしました。
- ・新鮮な魚をさばき、いただく活動を通して少しでも魚を好きになってもらいたいと考えました。

活動の成果

- ・保護者からは、いろいろな学校、学年の子供たちと一緒に、野外活動や飯ごう炊さん、共同生活を体験することで精神的な成長を見ることができたと喜びの声をいただきました。自立友愛、共同の精神を養うことができ、地域を超えた友達ができたとようです。
- ・宇久島の綺麗な海での海水浴やバーベキュー、お魚さばきなどの体験活動を通じ、本土と島の子供たちの交流を深め、友達をたくさん作り、友達を大切にすることを養うことができましたようです。

活動の課題

- ・島での活動のため、天候と子供たちの体調維持が一番の課題です。雨天の場合のスケジュールも常に考慮する必要があります。
- ・毎回参加人数が増えている一方、スタッフの数が足りなくなり、その確保が課題です。
- ・参加者にアレルギーや喘息が多く、活動内容に注意が欠かせなくなっています。



はじめてのお魚さばき

団体概要

本会は、子供の幸福な成長を願い、市内の子ども会育成会の連絡・協調を図り、円滑な運営と発展に寄与することを目的として、1971年に発足。佐世保市内の子ども会を対象とした体験活動を企画・運営し、子供及び子ども会指導者の育成に努めています。小中学生の子供たちの中からジュニアリーダーを育成し、学校や地域社会でリーダーとして活躍できるよう指導している。卒業後大学生や社会人になっても、サポートしてくれる人材に成長してくれた。他の行事として、春の「ジュニアリーダー研修」、「かべ新聞」、「救急救命教室」などがあり、子供たちによる子供たちのための子ども会を目指しながら、育成者の指導など行っています。

自然体験活動プログラム 第7回デフ・メロウ・キャンプ

- 活動期間／7月26日(金)～8月25日(日) 2泊3日 ■活動場所／みの石滝キャンプ場・このまさわキャンプ場
- 募集地域／東京及び関東
- 募集対象／聴覚障がい小学生(2～6年生)
- 募集方法／◆チラシ(配布先:特別支援学校)◆広報誌(名称:しゅわえもんの広報誌)◆その他(しゅわえもんWEBサイト)
- 実施団体名／特定非営利活動法人しゅわえもん ■構成員数／46人
- 連絡先／特定非営利活動法人しゅわえもん 事務所 〒167-0043 東京都杉並区上荻2-30-12-802
TEL・FAX 03-5930-2050 E-mail: info@shuwaemon.org
Webサイト: <http://www.shuwaemon.org> Facebook: <http://www.facebook.com/Shuwaemon>

活動のねらい

現在、ろう学校の多くは1学年1学級で、1学級に生徒4～5人が大半です。

この活動を通じて、他校や他地域のろう児とふれあう場を作り、自然の中での様々な体験を通し、自立性を身につけるとともに、チームワークの大切さや助け合う心を養うことを目的としています。

また、スタッフである青年ろう者と一緒に生活する中で、子供たちに自身の将来への希望や可能性に気づかせてあげたいと思っています。



真剣なまなざしで話を聞く子供たち

活動のポイント

プログラム	主なポイント
カヌー体験活動	カヌー体験を通して自然や安全について学ぶことの大切さと湖で遊ぶことの楽しさを知ってもらい、豊かな人間性と感性を磨く。
ウォークラリー	ウォークラリーマップの読み方を学び、グループ内のメンバーが協力しあって問題解決できる力を養う。
共同入浴体験	子供たちが一緒に入浴することで、公共の施設での入浴マナーとリラックスすることを学ぶ。

安全対策・健康管理

事前に参加者の健康状況を調査票にて把握するほか、専門知識を有するスタッフを配置しています。また、3日間の活動内容を確定した上で、各担当(企画、食事、生活)毎に、①どんな危険が潜んでいるか、②その対策をどうすべきか検討し、全体で情報共有していく危険予知ワークショップを実施しています。

スタッフ全員が応急手当ができるように、講師を招いてBLS(一次救命措置)の講習を受けています。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
8月1日	08:30	新宿駅集合・出発
	11:00	みの石滝キャンプ場 カヌー体験活動
	17:00	このまざわキャンプ場着・オリエンテーリング
	19:00	夕食
	20:00	レクリエーション活動
	21:00	就寝
8月2日	06:30	起床
	07:30	朝食
	09:00	ウォークラリー
	12:00	昼食
	13:00	川遊び
	16:00	夕食作り
	18:00	夕食
	19:00	キャンプファイヤー
8月3日	21:00	就寝
	06:30	起床
	07:30	朝食
	08:30	荷造り・片づけ
	10:00	キャンプ場出発
	10:30	温泉施設到着(共同入浴体験)
	12:00	昼食
	13:00	温泉施設出発
	15:00	新宿駅着・解散



ぼくの名前は〇〇だよ～

特に工夫した点

ろう児は、基本的に手話によるコミュニケーションを通して生活しています。

小学生は、多くの体験を通して人とのつながりの大切さを知る時期でもあることから、手話ができる環境を提供するために、スタッフ全員手話を習得しています。

また、自分と異なる学校の児童とグループを組むことで、いろいろな友達と触れ合える機会を作っています。

参加者は、関東地域の子供たちが大半であり、自然と触れ合う機会が少ないことから、自然体験を通して知識を広げ問題解決能力を身に付けられるプログラム作りを意識しています。

活動の成果

子供たちが緊張のため、同じ学校の友達同士でおしゃべりする場面が見られましたが、アイスブレイクを通して他の友達のことを知ることによって、緊張感を柔げることができたのが良かったです。

カヌー体験活動は、インストラクターの話を手話通訳者を介して聞き、質問をしていく体験は社会に出て重要なことであり、子供たちもスムーズに準備ができ、カヌーを楽しむことができました。

ウォークラリーでは、地図を読み取るルールを学び、長時間歩く体験を積むことができたことから、子供たちにとって大きな自信に繋がったのではないかと思います。

活動の課題

・スタッフは、自分が担当するグループの子供たちの顔を事前に把握することができない状態で、当日を迎えた点では負担がかかってしまったと思いました。

・自分の荷物について把握できていない子がおり、中には着替えをせず過ごしてしまった子もいました。

持ち物については、しおりの記載方法の工夫や準備についても保護者と一緒にやっていただくようお願いをするなど配慮が必要でした。

団体概要

NPO 法人しゅわえもんは、耳の聞こえない子供たちとその子供たちに関わる全ての人達が、お互いを尊重し合い、自分の個性を輝かせ、自分の力を発揮し、社会に羽ばたけるようにサポートしたい、みんなのオアシスの場になりたいという願いを込めて2005年8月に設立しました。ろう児に対して、人と人の、または、自然とふれあう場を提供し、一人ひとりが輝ける原動力につながることを願い、教育支援団体として活動を重ねてきました。

2007年5月にNPO法人として認証され、新たなスタートをきっています。自然体験活動の他に、芸術分野の発展を目指し、ろう児から大人まで楽しんでいただける演劇、劇団しゅわえもんの活動も行っています。

自然体験活動指導者のためのリスクマネジメント研修会

- 活動期間／5月17日(金)～3月15日(土)
- 活動場所／上田市菅平高原、上田市丸子
- 募集地域／長野県全域
- 募集対象／一般成人
- 募集方法／チラシ、ホームページ
- 実施団体名／特定非営利活動法人 やまぼうし自然学校
- 構成員数／3人
- 連絡先／〒386-2204 長野県上田市菅平高原1223-5751
TEL:0268-74-2735 FAX:0268-74-2795 E-mail:info@yamaboushi.org

活動のねらい

- 安全な野外活動を推進するため、自然体験活動を企画・指導する際に必要不可欠な安全対策に関して総合的に学び、“各指導者のスキルアップ”と“所属している団体の活動の安全強化”を目的としています。
- 研修会を通じて、指導者の安全管理への意識向上と、危険予知トレーニング等の安全管理に関するトレーニング手法を学び、継続的に安全な活動ができるスキルを身につけてもらいます。



山頂直下のロープワーク

活動のポイント

プログラム	主なポイント
①実践的な救急法	消防署や日赤で行われる救急法ではなく、それを基本として実際に事故例、ヒヤリハット例の多い症例に対する救急法を学ぶ。
②ワークショップ	実際にプログラムを体験した後、グループに分かれて危険箇所について検証、共有をはかる。
③保険の知識確認	自然体験活動を実施する上で、必要不可欠な保険についての知識を深める。

安全対策・健康管理

安全対策：年間契約の傷害保険や賠償保険に加入し、活動中は安全管理研修の実施、緊急対策マニュアルを携行します。

健康管理：健康調査票の事前提出を義務付け、活動中の健康状態を適宜把握します。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
5月17日	8:30	登山における安全管理とレスキュー技術、救急法 登山実習(登山)(林間学校等で利用の多い山で実施) 学校登山で注意すべき点を確認しながら登山
	10:30	山頂での講習 山頂直下の急斜面でのロープワーク 安全な登山のための具体的な技術を学ぶ 捻挫の応急処置(包帯、三角巾など) サムスプリントとの使い方
	15:30	下山完了/まとめ
12月22日	10:00	保険に関する講義とワークショップ 野外活動とリスク管理の考え方と検証
	12:00	昼食
	13:00	ワークショップ 1年間の活動の洗い出し 野外活動のリスクについて
	17:30	まとめ
2月23日	13:00	川・水のリスクマネジメント ・川遊びにひそむ危険と対策 ・安全管理と危険予知 ・川遊びの危険と対応
	16:30	まとめ
3月15日	9:30	雪山登山の危険について、ルートファインディング ・コンパスの使い方、読図 ・冬に起こりやすい問題
	11:30	昼食/フィールドへ移動
	12:30	実技 ・地図読み ・フィールドを歩きながらコンパスワーク ・バックペアリング、ストレートハイク ・危険箇所の通過、休憩場所について ・ピバーク場所、ピバーク設置(ツエルト、エ マーゼンシーシートを使用して)
	16:30	まとめ

特に工夫した点

- ・身近なフィールドを選定したこと。
- ・同じ内容で複数年間にわたり継続実施をすることでプログラムの完成度を高める。
- ・参加者の都合を考え、繁忙期の前後に開催日を設定したこと。

活動の成果

受講者からも好評で、次年度の開催希望もありました。同じ内容で繰り返し開講することにより、中身の濃い研修会となり受講者自身も知識と技術が身につけやすくと実感しました。

活動の課題

- ・講座の日程調整と参加者募集の広報活動
- ・同じエリアをフィールドとしている団体同士の交流(技術や危険箇所の共有など)
- ・危険に対する意識の統一

カリキュラム

所要時間	項目	ねらい	内容
講義 180分 実習 120分	□リスクマネジメントの基礎を学ぶ □野外プログラムリスクの検証	・リスクマネジメントの基礎を理解する ・野外活動プログラム個々のリスクの洗い出しとリスクの把握を行う	・リスクマネジメントとは ・野外活動の様々なリスク ・リスクの洗い出しと分析 ・事故事例の分析
講義 60分 実習 240分	□登山における安全管理とレスキュー技術/救急法	・登山における安全とレスキュー術及び目的にあった救急法を習得する	・登山実習を通じて、登山全般の安全管理 ・レスキュー技術実習 ・救急法実習
講義 180分 実習 180分	□保険についての理解を深める/ワークショップ □リスクマネジメントトレーニング手法	・保険について理解する ・リスクマネジメントトレーニングの手法について学ぶ	・保険(傷害・賠償)の実際 ・事故が起きた時の対応について ・組織内での安全管理について
講義 60分 実習 240分	□雪上プログラムの危険について □まとめ	・雪上のプログラム実施の危険について理解する ・講義と実習のまとめ	・雪上でのプログラム実習を通じて、雪上活動での安全管理全般を学ぶ



救急法

団体概要

- ①1996年6月「森林・生活文化の再生と継承」を目指し森林インストラクターの有資格者で任意団体を設立し、2000年3月に長野県では第1号の環境保全NPO法人として認証されました。
- ②活動の中心は、次世代の子供たちへの森林環境教育で、「森でつながるいのちのわ」をキャッチフレーズに自然体験プログラムの開発と実践や、その一端を担う指導者の養成を社会的ミッションとして重点をおいています。
- ③指導者養成講座の受講生を中心に独自の人材バンクを創設しており、定期的にスキルアップ研修会を行っています。行政との協働事業も積極的に行っています。

体験しよう!雪あそび

- 活動期間／1月11日(土)～3月2日(日) 1泊2日 ■活動場所／兵庫県八千高原スキー場
- 募集地域／徳島県鳴門市
- 募集対象／小学生(3～6年生)～中学生
- 募集方法／チラシ(配布先:鳴門市内全小学校・中学校)
- 実施団体名／ボーイスカウト鳴門第9団 ■構成員数／8人
- 連絡先／徳島県鳴門市撫養町黒崎字小谷47-5 TEL 088-686-6023
E-mail sett-15@tv-naruto.ne.jp

活動のねらい

四季折々に自然体験の良さがありますが、温暖な鳴門市では雪が降るのは年間1～2回程度です。ここ数年は温暖化の影響で、道路に積もった雪を見ることはありません。そのような環境の中で育つほとんどの子供たちは、雪景色を見たことがなく、雪遊びを経験したことがありません。

このため、自然の恩恵である積雪の中で、元気よく遊び、雪の冷たさや柔らかさ、硬さを体験しながら、雪国での生活に触れる機会を提供します。また、その遊びの中で、異年齢の仲間たちと協力することによって成し遂げることの喜びを感じ取ってもらいたいと考えています。



そり遊び

活動のポイント

プログラム	主なポイント
大雪だるま作り	班で大きな雪だるまを作る。カッコいい、可愛い、大きい雪だるまをどうすれば作れるか。苦勞しながら、みんなで力を合わせて作成し、協力して成し得た時の達成感を味わわせる。
雪上大運動会	班対抗で、雪上かけっこや、そり引きレース、雪合戦等の雪上運動会を行う。普段の生活では想像もできない、雪の中での歩く・走る・滑るを体験し雪国の冬を感じてもらう。
スキー体験	雪の冷たさ・柔らかさ・硬さを感じさせながら、壮大な銀世界の頂きから見る景色の素晴らしさや風の冷たさ、滑ることを感じる爽快さを体感する。

安全対策・健康管理

- ・事前説明会で、「健康カード」を配布して活動日の3日前から検温をしてもらいます。その日の健康状態をチェックし、健康管理を行います。
- ・指導者は下見を行い、当日も再度危険場所などをチェックします。
- ・子供たちには、大人のスカウトが見守る中、班行動を厳守させ、常に班の仲間を意識させます。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
1月11日	10:00	事前説明会 活動概要説明と準備物説明
	12:00	解散
2月1日	08:00	鳴門市 うずしおふれあい公園 集合・受付
	08:30	移動 鳴門市 うずしおふれあい公園 ⇒ ハチ高原スキー場
	12:00	昼食(兵庫県朝来市)
	14:00	ハチ高原スキー場到着・オリエンテーション
	14:30	雪あそび 大雪だるま・かまくら作り 雪上大運動会(雪合戦など)
	18:00	夕食
	19:00	スキーブーツサイズ合わせ準備
	20:00	入浴 就寝
2月2日	07:00	起床・洗面・荷物かたづけ
	08:00	朝食・朝礼
	09:30	スキー体験
	12:00	昼食・休憩
	13:00	スキー体験
	16:00	移動 ハチ高原スキー場 ⇒ 夕食→ 鳴門市 うずしおふれあい公園
	17:30	夕食・感想文作成
	21:00	うずしおふれあい公園到着・解散



スキー体験

特に工夫した点

参加者は学校も学年もバラバラです。異年齢の班活動では、班長から連絡事項を伝えるようにすることで、子供たちが初めての仲間の輪を大切にでき、子供たち同士で教えあいが出来るよう、班行動に工夫しました。

活動プログラムでは、雪に触れる時間を多くとりました。雪道を歩いた経験の無い子供たちは雪の上を歩くのにも時間がかかります。雪を丸めたり、スコップを使って雪を掘る経験は、自然を知る貴重な時間だと考えました。

活動の成果

温暖な地域で暮らす子供たちは、初めて見る雪景色に、バスの中で歓声を上げるなど、一面真っ白な景色に感動したようでした。ほとんどの子供たちが、スキー場に来るのは初めてで、保護者もスキー経験が無い方が大半でした。積もった雪の上を歩いたり、雪の遊びを楽しむことができ、特にスコップで穴を掘ってかまくら作りが面白かったようでした。

今回の計画で、鳴門市では体験できない雪の遊びを子供たちに体験させることができ、地域により違う日本の冬を知る良い機会となったと思います。

子供たちが、班単位で考え行動するよう促したことから、仲間意識が芽ばえ、遊び方やルールづくりなどにおいて自発性が生まれました。

活動の課題

今回参加した子供たちも雪あそびの経験がほとんどありませんでした。スキー体験は2～3回行くと楽しさがより伝わるのですが、県外への移動と1泊2日では時間が少なく感じました。子供たちの感想では、「来年も行きたい」との声がたくさんありましたので、参加者が思い出に残る体験が出来るよう、この活動を継続して行うことが課題です。

団体概要

1963年に撫養^{むや}小学校南浜地区の健全育成のためボーイスカウト鳴門第9団が発隊しました。現在では、鳴門市全域の子供たちの健全育成団体として、幼稚園から26歳までのスカウトが登録しています。班活動を通して班のそれぞれの役割を学び、自治で行動することを活動から学びます。ハイキングやキャンプなど野外活動を行い、子供たちはゲーム感覚で遊びの中から知恵や知識を身につけ、将来はリーダーシップを発揮し、社会に役立つ大人に成長できるよう日々の訓練を行っています。団体の構成員は、スカウトから指導者へなった者と保護者から訓練を受けた者が携わっています。

親子で楽しむ科学実験

■活動期間／6月9日(土)～10月21日(月) 延べ10日間 1会場2時間程度

■活動場所／西ノ島公民館、海士交流センター、大田市民センター、安来市立安田小学校、大朝健康センター、津山教育会館、ソフトビジネス島根、出雲科学館、大柿しまなみ科学館、雲南市交流センター

■募集地域／島根県(西ノ島町、海士町、大田市、安来市、松江市、出雲市、雲南市)、広島県(北広島町、江田島市)、岡山県(津山市)

■募集対象／小学生(1～6年生)～中学生とその保護者、一般成人

■募集方法／◆チラシ(配布先:当該市内の小学校、公民館)◆広報誌(当該地域の(町)報)

■実施団体名／科学実験教室実行委員会 ■構成員数／10人

■連絡先／〒690-0823 島根県松江市西川津町632-4 曾我部 國久 TEL 0852-25-4507

活動のねらい

子供の理科嫌いが叫ばれて久しいが、子供は理科が嫌いではなく、好きになる機会に遭遇することがなかっただけです。驚きと感動を与え科学への興味関心を引き出す実験等を提供してあげれば、理科が好きになると同時に、集中力、想像力、思考力、協調性等が養成でき、学力やスポーツの向上につながるはず。このため、マジックショーやものづくり実験等を通して、科学に対する興味関心を持たせるとともに、ものづくりなどの実験を通して、失敗の中から学ぶ態度が備わり、自立する喜びを得ることを願っています。



身近なものを使って科学実験(紙コップを使って飛行機づくり)

活動のポイント

プログラム	主なポイント
サイエンスマジックショー	①驚きと感動を与え興味関心を引き出す。 ②科学が生活に密着した分野であることを学ばせる。
体験実験	①見たり聞いたりしたことを自分の五感を通して確かめる。 ②先端技術に触れ、自分の夢づくりの契機とする。
ものづくり実験	①ものづくりを通して、段取りや手順を考え集中力や思考力を養う。 ②失敗とチャレンジの中で達成感を得させ、自立精神を養う。

安全対策・健康管理

- ・ショーやものづくりでは危険な物を使うので、保険に加入するとともに講師や補助者の指示に従い、勝手な行動を慎むことを最初に注意する。実験時間中は構成員が中心となり、安全管理に配慮した体制をとる。
- ・健康管理は、基本的に家族単位で健康管理をしてもらう。脱水症状防止のために参加者が飲料水等を持参し、適時水分補給をするように促す。会場内の室内温度等にも十分配慮する。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
6月29日 西ノ島	13:00～15:00	1会場当たり、2時間で実施し、プログラムの流れは以下のとおり。
6月30日 海士町	10:00～12:00	
7月6日 大田市	10:00～12:00	○実験のスケジュールと諸注意 ○マジックショー(55分) ・ヘリウムガスによる変声 ・音と振動の関係 ・液体窒素による花やボールの瞬間凍結 ・空気の液化・気化など三態変化 ・エジソンの電球実験
7月28日 安来市	10:00～12:00	
7月31日 大朝町	13:00～15:00	・電子レンジによる花火実験 ・電磁誘導とクレーンの原理 ・真空と空気のパワー実験 ・アルコールや水素の燃焼や爆発実験
8月10日 津山市	13:00～15:00	
8月17日 松江市	13:00～15:00	○体験実験(15分) ・液体窒素を使った瞬間凍結実験
8月18日 出雲市	13:00～15:00	
8月31日 江田島市	13:00～15:00	○ものづくり(50分) ・万華鏡づくり等
9月22日 雲南市	13:00～15:00	

特に工夫した点

実験を通して、人の話を聞く態度（背筋を伸ばして聞く、手遊びなどをしない）の重要性を教えます。“聞けば解る。”“解れば面白い。”“面白いと好きになる。”この原理を子供や保護者に教え、学力向上や自分の夢づくりの契機とします。さらに、ものづくりでそれを実践させると、“よく話を聞かない人は必ず失敗をすること”を実感させるといかに話を聞く態度が重要かが理解できます。話を聞く態度が身に付けば、自然と集中力、思考力、創造性などが備わり、自分の夢へのサクセスが近づくことを知ること気付かせています。

活動の成果

参加した子供からは、「理科が好きになった。理科が面白いことが解った。話を聞くことの大切さがわかった。」保護者からは、「実験も良かったが、子育てや食育の話がよかった。子供を自立させる機会になった。子どもが生き生きとしていた。このような機会がもっと欲しい。」など非常に好評でした。実験が終わった後に、お礼を言ってくれる子供たちがいると実施した甲斐がありました。



液体窒素でできる雲にさわる子供たち

活動の課題

やはり、企画する人間やサポートする人間の数が少ないのが難点です。地域の教員やボランティアの人に頼るには限界があることから、自主企画を増やすなど工夫をしています。

団体概要

子供の理科嫌いを無くし子供の夢支援を行うために、代表が1988年に一人で活動を始め、1992年に代表の教え子である小中学校の教員や大学教員、科学館教員等が中心となって、現在の団体を設置し、年間約50回程度の活動を行ってきています。団体は代表1名、副代表2名、会計2名、監査2名等10名で構成している。

2時間の実験時間（サイエンスマジックショー、体験、モノづくりの3点セット）を通じて、子供や保護者の意識改革を行うことを主体に活動している。子供と保護者を対象とすることで、人の話を聞く態度等を親の目線で注意する機会を増やすと同時に、ものづくりの共同作業を通して親は子供の能力を、子供は親の力を知ることにより親子のきずなを強めてもらうことを狙っています。実験教室の他は、団体の自主企画として東北の震災支援と自治体や企業からの依頼の実験教室を開催しています。

夢は音速超え!?モデルロケット発射実験教室

■活動期間／2013年10月12日(土)～11月18日(月) ■活動場所／豊橋市青少年センター内(大研修室・運動広場)

■募集地域／愛知県豊橋市内

■募集対象／小・中学生とその保護者

■募集方法／◆チラシ(配布先:近隣小中学校) ◆ポスター(掲載先:小中学校、校区公民館)
◆広報誌(掲載先:広報とよはし) ◆その他(近隣地域回覧版)

■実施団体名／海・空学ぼう会 ■構成員数／11人

■連絡先／海・空学ぼう会事務局(豊橋市青少年センター内) 豊橋市牟呂町字東里26
TEL0532-46-8925

活動のねらい

ロケット発射実験を通じて、子供たちに科学に興味をもってもらうことはもちろんですが、困難に負けず夢を実現させることの大切さを伝えることを主なねらいとしました。

はじめに、モデルロケット(ペンシル型ロケット)の発射実験で音速超えを達成した佐々木克也先生にご講演いただき、発射実験時の苦労やそれをどのように乗り越えたかを話してもらい、その後、子供たちが実際にロケットを自分で製作し発射するという成功体験をすることで、子供たちがそれぞれの夢を実現するヒントをつかんでもらいたいと考えました。



モデルロケット製作風景

活動のポイント

プログラム	主なポイント
講演「夢をあきらめない熱中人 自作ロケットで音速突破!」	アメリカの砂漠でのロケット発射実験の計画づくりや製作時の試行錯誤や、発射が成功した時の感動体験、困難をどのように乗り越えたかについてお話いただく。
モデルロケットの製作	実際にモデルロケットを製作することを通して、困難に負けず夢を実現させることの大切さを伝える。
ロケットの発射実験	屋外に出て、自作モデルロケットの発射の実験を行う。実際に、ロケット発射の成功体験をさせる。

安全対策・健康管理

安全対策：ロケット製作の手順や小道具の使い方についての指導を徹底する。

発射実験時の約束(「発射準備よし、低空物体なし」と確認してから発射ボタンを押す)を遵守させる。

発射後、コントローラーと打ち上げ後のロケット(パラシュート)を回収するところまで、各自で行う。

参加者全員が障害保険に加入し、小学生が参加する場合は、保護者も参加することを条件とした。

健康管理：当日の参加者の健康観察・体調把握、活動中には休憩時間をとるようにした。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
10月12日	08:30	会場・受付準備
	09:15	受付・グループ分け
	09:30	開校式 第一部 講演会「夢をあきらめない熱中人 自作ロケットで音速突破！」
	11:00	第二部 ロケットの製作
	12:00	昼食休憩
	13:00	第三部 ロケット発射実験
	14:00	閉校式 認定証授与
	14:20	会場片付け
	16:00	実験教室評価・終了

特に工夫した点

- ・事前打ち合わせにて、ロケットの機種選定、当日の風向き、発射台の位置や発射角度等についてシミュレーションを実施し、当日全員が発射できるように準備を行いました。
- ・当日は、各グループにボランティアスタッフがついて、製作時の手順やコツを指導しました。特に、火薬を扱うので、事故が起きないように、十分注意するように説明しました。また、製作時には、3つの尾翼が均等な位置関係となるように取り付け、発射時にまっすぐに打ちあがるようにしました。作り方により、ロケットの飛距離や滞空時間が変わるので、より高く、長い時間飛ぶロケットとなるように、指導者の指示をよく聞いて、注意深く作成するようにしました。
- ・ロケット発射時には、電線等がない屋外の広い場所を確保し、コントローラーの使用方法や打ち上げ後のロケット（パラシュート）回収方法についても、安全面に十分配慮して実験を行うよう指導を行いました。

活動の成果

佐々木先生の講演では、映像等の場面で”オーツ”と言う感嘆の声を聞き、参加した子供たちの好奇心が刺激された様子がみられました。ロケット製作の場面では、参加者一人ひとりが試行錯誤し、保護者も一緒に悪戦苦闘し、先にできた子供からコツや手順を教えてもらう等の姿が見られ、微笑ましく思えました。小さな子供も保護者とともにロケットを完成させました。ロケット発射では、全員が発射を成功させ、大きな驚きと喜びを得ました。アンケートは参加者全員から「とても良かった」と満票を得られました。

活動の課題

講師の都合で、日程が当初より1週間前倒しになり、当日は市内各地で秋祭りが開催されたことと、前日、当日と参加者から風邪や急用などの理由で10名のキャンセルがあり、大きく参加者数が減少してしまいました。

広報活動の周知徹底と子供の参加の後押しになる大人からの声掛けが不足した感があります。団体スタッフが一人丸となって事業に取り組まないと達成できないことを痛感しました。

団体概要

<目的> 愛知県豊橋市は、世界屈指の貿易港三河港があり、日本の代表的な工業製品が世界に向けて輸出されている場所であると同時に、畑作等の農業も盛んな地です。本会では、実験を主とする体験活動を行うことにより科学的探究心や知識、技能を養うことを目的としています。この活動を通して、海や空から豊橋の姿を見直し、わが町豊橋を好きになってもらうことを目指しています。

<構成> 会長以下11名の構成員を有しています。



5・4・3・2・1発射！

レッツチャレンジ!サイエンス

■活動期間／5月19日(日)～11月29日(日) ■活動場所／・秋田駅東口ALVE4階自然科学学習館 ・秋田大学

■募集地域／秋田市全域

■募集対象／小学生(3～6年生)、中学生、高校生、保護者、一般成人

■募集方法／チラシ(配布先:秋田市内各小学校)

■実施団体名／秋田理教クラブ ■構成員数／10人

■連絡先／秋田県秋田市手形学園町1番1号 秋田大学教育文化学部 理科教育学研究室
TEL 018-889-2524(川村)

活動のねらい

学校の理科授業で取り上げられないようなものについて、子供向けの実験・観察教材を開発し、物理・化学の各種実験や生物・地学標本の観察、科学の原理を活かしたものづくりを種々体験させることを通して、身の回りの科学現象や事物について興味・関心を高め、探究心を子供の中に育むことをねらいとしています。保護者等に対しては、子供が科学体験を経験することによって子供が変容することを感じてもらい、科学実験・観察活動が子供の自然観育成に重要であることを理解していただくことをねらいとしています。



化石発掘

活動のポイント

プログラム	主なポイント
実験活動	物理・化学・地学の各種実験を種々体験してもらい、実験で取り上げる自然現象についての興味・関心を高める。
観察活動	生物・地学標本の観察を種々体験してもらい、観察で用いる自然の事物についての興味・関心を高める。
ものづくり活動	科学の原理を活かしたものづくりを体験してもらい、ものづくり活動についての興味・関心を高める。

安全対策・健康管理

- ・火やはさみなどを使う実験のときは、水の入ったバケツを用意したり、救急箱をあらかじめ用意したりして、万全の安全対策をとりました。
- ・怪我が予想される実験については、実験指導者を2名配置するなど工夫をしました。
- ・夏季は熱中症予防の観点から、室内であっても水分補給をこまめに摂ることを呼びかけました。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
第1回		
5月19日(日)	10:00 ～ 15:30	(実験内容) ・レインボースピン ・フローティングアース ・チューブプレーン ・リフティングボディ ・2階建てグラス ・月と地球の大きさ ・耐震補強 ・スポンジ ・スライム ・天体望遠鏡
第2回		
7月27日(土) 7月28日(日)	10:00 ～ 15:30	(実験内容) ・ふしぎな風船 ・化石発掘 ・万華鏡 ・スライム ・ペットボトルロケット ・葉脈標本 ・紙コップスピーカ ・にじいろアート ・風船電話
第3回		
10月19日(土) 10月20日(日)	10:00 ～ 15:30	(実験内容) ・スライム ・化石発掘 ・万華鏡 ・レンズカメラ ・空気砲 ・ペットボトルロケット ・葉脈標本 ・指紋探し ・くるくるモビール ・エコマイク ・そらとぶたね ・ビー玉顕微鏡

特に工夫した点

- ・できるかぎり子供たちの手で実験・作業を行わせることで、「実験が楽しい」という気持ちを持ってもらうことを大切にしています。
- ・子供の「なぜ、どうして」という探究心を自発的に引き出すように、子供が興味関心を持てるような理科実験を考えています。
- ・構成員やボランティアにより開発されたり工夫された教材を用いています。

活動の成果

子供たちから、「楽しい」、「もっと実験をしたい」という声があがり、理科に対して興味を持たせることができました。また、「物理・化学の実験や生物・地学標本の観察、科学」といった、ねらいに即した様々な実験を行うことができました。身近な道具で実験を行うことによって理科を身近に感じさせ、「身の回りの科学現象や事物について興味・関心を高め、探究心を子供の中に育むこと」ができました。

活動の課題

保護者等に対して科学実験・観察活動が子供の自然観育成に重要であることを理解していただくことをねらいとしましたが、実際にはそれに沿った実験があまりできませんでした。保護者等に対しても意図がわかるような実験を行っていく必要があります。



月と太陽の大きさを知ろう

団体概要

秋田県内在住の理科教員や理科教育学の研究者・専門家により構成しています。これまで、学校の理科授業で取り上げられないようなものについて子供向けの実験・観察教材を開発に取り組み、学校や地方行政団体・機関、民間団体からの依頼により、小学生や中学生対象の科学コミュニケーション活動に取り組んでいます。このような科学体験活動で物理・化学の各種実験や生物・地学標本の観察を種々体験させることを通して、身の回りの科学現象や事物について興味・関心を高め、探究心を子供の中に育むことをねらいとしています。

車いすテニス・ジュニアキャンプ

- 活動期間／8月24日(土)～12月3日(火) 1泊2日
- 活動場所／1回目・別府/太陽の家スポーツセンター、2回目・宮崎/宮崎シーガイアアカデミー
- 募集地域／九州7県(福岡県・大分県・佐賀県・長崎県・熊本県・宮崎県・鹿児島県)
- 募集対象／未就学児(4～6歳)、小学生(1～6年生)、中学生、高校生、保護者
- 募集方法／◆チラシ(配布先:福祉センター/県庁/役場/福祉施設)
◆ポスター(掲示先:福祉センター/交流センター/役場)◆熊本車いすテニスクラブホームページ
- 実施団体名／熊本車いすテニスクラブ ■構成員数／8人
- 連絡先／〒864-0011 熊本県荒尾市下井手1546
TEL:080-4275-2775 Mail: santa777@proof.ocn.ne.jp

活動のねらい

障がいを持つ子供たちに、健常者と変わらず同じようにスポーツを楽しめるということ、車いすテニスという競技を通じて伝えること、また、障がい者・健常者の枠を越えて子供たち同士の交流を深めることが目的です。

車いすテニスという種目は、健常者でも障がい者でも同じように、なおかつ一緒に楽しめるスポーツですので、障がいや地域・年齢を越えて交流ができ、また、交流を通じて仲間を作ることをねらいとしています。



別府でのテニス練習風景

活動のポイント

プログラム	主なポイント
オリエンテーション・車いす体験	健常者も車いすに乗り、車いすの操作を体験することで、車いすでの生活や実際の動作における難点や介助方法を把握します。競技用の車いすを使用して鬼ごっこなども行ないます。
テニスレッスン	みんなで同じスポーツを頑張るということで、仲間意識を高めます。フィットネスから、ボールに慣れる、ラケットを手にしてボールを打ってみると段階を踏んだテニスレッスンを行ないます。
地獄蒸し調理体験会	地元の名物 地獄蒸し料理を体験します。自然の恵みを利用したの地熱調理を体験することで、地球は生きていくということを感じてもらい、調理した食を囲み、自己紹介やゲームを行ないます。食文化を通じて交流を深めることがねらいです。

安全対策・健康管理

スポーツ中心のプログラムなので、参加者全員が保険に加入します。特に8月のジュニアキャンプは気温が高いため、熱中症にならないようにこまめな水分補給を心がけ、常時身体を冷やせるように氷を準備しました。

また、障がいを持つ子供も参加するので、理学療法士やスポーツ救護ナースの資格を持つ方々に同行してもらい、万全の体制をとっています。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
8月24日	10:30	(第1回目) 別府 現地集合
	10:40	オリエンテーション・準備運動～車いす体験
	12:00	昼食 後半交流を兼ねてレクリエーション
	13:00	車いすテニスレッスン
	14:00	休憩
	14:20	車いすテニスレッスン
	15:30	宿泊施設にて入浴、その後移動
	17:30	地獄蒸し調理実習体験、その後食事と交流会
8月25日	20:00	解散→子ども達はトレーニングセンターにて就寝
	09:30	集合→交流会
	10:15	車いすテニスレッスン
	11:46	昼食
	12:45	車いすテニスレッスン
	14:00	交流会・反省会
11月2日	15:00	解散
	10:30	(第2回目) 宮崎 現地集合
	11:00	オリエンテーション(交流会・自己紹介・準備運動)
	12:00	昼食
	13:00	車いすテニスレッスン
	14:00	休憩
	14:20	車いすテニスレッスン
	16:00	解散→宿泊施設にて入浴・休憩
11月3日	17:30	食事・交流会
	09:00	集合
	09:10	準備運動
	09:30	交流会
	10:00	車いすテニスレッスン
	11:45	昼食
	13:00	車いすテニスレッスン
	15:00	交流会・反省会
	15:30	解散

特に工夫した点

最初は自己紹介から入り、できるだけ話す機会を多く作ったので、うちとけやすかったようです。

障がいがない子も車いすに乗って、自分で車いす操作を体験することにより、障がいの壁を感じなくなったようです。その際は鬼ごっこなどのレクリエーションを笑顔で楽しく行なったことが、効果を上げました。

また、地獄蒸し料理をみんなで体験し、食事をしながらの交流は、笑顔が一杯でうちとけるのも早かったようです。食文化の力だと思います。

活動の成果

テニスというスポーツを通じ、九州北部・南部の2回の活動で、子供たちは身体を動かしながらよくコミュニケーションが取れていました。最初はお互いに恥ずかしがっていた子供たちも、一緒に同じスポーツを行なうことで、仲間意識が高くなったようです。初めてラケットを持つ子供たちも、2日目には、ボールがラケットに当たり始め、車いす操作もできるようになり、とても嬉しそうでした。車いすテニスをみんなで楽しみながら、障がい者・健常者の枠を越えて交流が深まり、子供たちは成長できたと思います。

活動の課題

テニスを通じて、体力向上・コミュニケーション力アップを図りながら、さらにはテニスの技術を上げて、みんなでゲームを楽しめるように働きかけたいと思います。また、各地にテニスの友達ができるよう、ネットワーク作りに寄与したいと考えています。



すぐお友達になりました

団体概要

- 1) 設立者は、1986年に交通事故が原因で障がいを持つことになり、家族や友人と一緒に楽しめる車いすテニスと出会う。その後は、国際大会や全国大会等に出場することにより、地域を越えて仲間が増えその楽しさを多くの方々に伝えることを目的にクラブを設立しました。現在では、ジュニア育成に力を入れています。
- 2) 活動は、毎週火・金曜日に定期的に車いすテニスの練習を行うほか
 - ・毎年7月にジュニア体験講習会・車いすテニス体験講習会、車いすテニス九州大会を開催。
 - ・毎年11月に健常者と障がい者のミックスダブルステニス大会を開催しています。

高齢者と子どもたちで作る地域の安全・安心マップ作成事業

- 活動期間／8月3日(土)～3月29日(土)
- 活動場所／阿久根市、出水市、高尾野町(鹿児島県)
- 募集地域／薩摩川内市、阿久根市、出水市、伊佐市、さつま町、長島町(鹿児島県)
- 募集対象／小学生(3～6年生)、高齢者
- 募集方法／◆チラシ(配布先:新聞折り込み、学校、公共施設) ◆ポスター(掲示先:学校、公共施設)
- 実施団体名／特定非営利活動法人 さわやか出水女性の集い ■構成員数／40人
- 連絡先／TEL 0996-68-2959

活動のねらい

子供が被害に巻き込まれる事件、事故が多発しています。大人が安全パトロール隊を作り子供を守る活動が行われていますが、子供たち自身が「自分の身は自分で守る」という心構えを持つことが大切です。

子供たちと地域の高齢者が、普段の生活の中で通学路や遊び場所までを一緒に歩き、事故や事件に遭いそうな危険が予測される場所をチェックし、目に見えるように地図化することにより、自分を守る心を養います。

また、子供たちが高齢者と一緒に活動することで、ノーマライゼーションの心を養うことを目的とします。



下水流小学校

活動のポイント

プログラム	主なポイント
マップ作りの情報を集めるための地域調査	子供たちと高齢者たちとがともにグループになり、地域を実際に歩き、危険な場所等について記録したり、写真を撮影する等の調査を行います。 地域で長年生活している高齢者は、様々な情報を持ち人生経験も豊富です。見通しの悪い交差点や幅のせまい道路等、通学路で交通安全に特に注意が必要な場所や過去に不審者が出没した箇所、道路と水路が隣り合っている箇所等について、どのような危険があるのかを子供たちと高齢者が共に考えます。消火栓や子ども110番の家等についても調べます。

安全対策・健康管理

事前の対策としては、傷害保険への加入や救急箱の常備、看護師の常駐、緊急連絡網の作成を行いました。

当日の安全対策としては、交通安全等の観点により活動時に危険が予想される地点には、小学校の先生方にも協力いただき、路上に立って活動を見守っていただきました。

また、健康管理では、真夏の活動であるため調査中は高齢者のペースにあわせて、各グループ毎に適宜休憩をとってゆったり進めたり、状況により無理せず早めに調査を切り上げて屋内に入るなどの配慮をしました。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
8月3日		第1回「安全・安心マップ作成」活動実施 場所 阿久根市 折多小学校周辺 「1日目」
	09:00	打ち合わせ 準備
	10:00	参加者集合 オリエンテーション グループ分けをし、各グループで自己紹介 (進行: 野外活動指導者) グループは、児童4~5名と65歳以上の高齢者3名 程度で構成 各グループに、指導者、団体構成員、警備の役割の 社会人アルバイトが帯同
	13:00	調査に出発
	14:00	調査終了
8月4日	10:00	公民館に集合、マップ作成作業開始
	16:00	各グループ毎に発表、アンケート記入
8月24日 8月25日		第2回「安全・安心マップ作成」活動実施 場所 出水市 米ノ津小学校周辺
3月22日 3月23日		第3回「安全・安心マップ作成」活動実施 場所 高尾野町 下水流小学校周辺 活動報告書作成、関係機関へ配布(学校、教育委 員会)



米ノ津小学校 (A~DグループのA)



折多小学校

特に工夫した点

活動の約2週間前に、小学生の児童や先生方と事前打ち合わせを行い、児童から「自分の住んでいる地域以外の場所の調査を担当してみたい」という意見が出された場合には、班編成等について配慮することとしました。

また、先生方から調査中の児童の集中力が継続するように、「この地点では子供たちの目線から、写真を撮影してもらうようにする」等具体的なアドバイスをいただき、当日の運営に反映しました。

マップ作成にあたっては、子供たちが見やすく、理解しやすく、興味を持って活用できるようなマップにするために、野外活動指導員の先生からも細かいアドバイスをいただきながら、何回も校正を重ねました。

活動の成果

各会場では、子供たちが高齢者と一緒に、真剣に取り組む、素晴らしいマップが完成しました。学校を通じて各家庭に配布したり、町内会で回覧したほか、公民館等の公共施設には拡大して掲示しました。

活動終了後、参加した子供たちや高齢者から、地域の安全・安心のために役立つことができたという達成感にあふれた便りをいただきました。

高齢者の中には民生委員や児童委員も含まれるため、この事業を通じて地域の子供たちについて知り、日頃の活動に活かしていただいています。

活動の課題

5年間で17事業を実施しましたが、学校の年間行事予定を考慮にいれて予定を立てる必要性を感じています。

また、真夏に実施するには体力的にハードな事業です。小学校4~6年生は問題ないですが、やはり低学年の児童には難しいと思われます。できれば、春または秋の実施としたいところです。

今後は、マップ作成の活動をさらに子供たちが中心となるようにできたらよいと思います。

団体概要

子育て支援と高齢者活性化支援を両軸に、まちづくりや地域づくりのための複合的ボランティアを展開している平均年齢70歳以上の女性団体です。ボランティア活動を生涯学習と介護予防とに位置付け、ボランティアの四つの精神「公共性」「自発性」「先駆性」「無報酬性」を基本理念とし、女性の地位向上と明るく豊かな生きがいに満ちた地域づくり、子供たちがきらきら光り輝き、高齢者が安心して暮らせる社会づくりを目指し、16年前に結成しました。

さわやか出水来て喜てサロン(子育て支援等)、国際交流、出水警察協力レディース隊、さわやか一座、ボランティアひまわり、平和学習ガイド等幅広く活動しています。

2012年には、内閣府エイジレス・ライフ実践者及び社会参加活動事例「社会参加章」を受賞しました。

第4回こどものまち「ミニかぬま」

- 活動期間／3月28日(金)～3月30日(日) ■活動場所／鹿沼商工会議所 アザレアホール
- 募集地域／鹿沼市及び周辺地区
- 募集対象／小学生(1～6年生)、中学生、高校生
- 募集方法／◆チラシ(配布先:鹿沼市内小中学校・鹿沼市内公共施設・日光市内コミセン・宇都宮市立城山西小・県立子ども総合科学館) ◆広報誌(せやタウン・鹿豊新聞・下野新聞) ◆鹿沼ケーブルテレビ
- 実施団体名／こどものまちミニかぬま実行委員会 ■構成員数／8人
- 連絡先／鹿沼市みなみ町8-124宮園方 TEL・FAX 0289-75-3848

活動のねらい

小学生から18歳の子供たちが、異年齢交流の中で自主性や社会性を育みながら、子供主体の仮設都市をつくることを目的とします。子供たちが、まちの目標やしくみ、ルールを作り、働く意義や楽しさを実感することで、住民自治の意識や生きる力を育みます。また、3日間の開催により、今回のまちの目標である「みんなのトリプル、打ちあがるハッピーミニかぬま」を達成します。



お店の品物を売り歩く子供たち

活動のポイント

プログラム	主なポイント
1. 仲間づくり	ゲームや野外活動を通じ、異年齢の子供たちの交流を図り、自己表現ができる仲間意識を育む。
2. 子供スタッフ会議	子供スタッフとしての役割やまちづくりについて学び、まちの目標や目標達成のためのルールについて話し合う。
3. こどものまち「ミニかぬま」	まちのルールに基づき、自分のやりたい仕事を選び、働いたお給料で好きなものを買うことで、働く意義やまちづくりの楽しさを実感する。

安全対策・健康管理

- 参加者は傷害保険に加入するとともに、大工の仕事は、例年怪我が多いので布手袋を使用しました。また、看護師の有資格者がスタッフとして参加しました。
- 会場は、全体が見渡せるフラットな場所を選びました。
- 会場内に手洗い場を増設したり、食品を扱うお店では、必ず調理場で食材を切ることとし、包丁を会場に持ち込まないなど、衛生面や安全面に注意しました。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
10月26日	13:00～16:00	ミニかぬまの概要説明 仲間づくり(アイスブレイク) 子どもスタッフ会議 (別コーナーにて、保護者説明会)
11月2日	10:00～14:30	ランチづくり まちづくりワークショップ(どんなまちにするか)
11月16日	13:00～16:00	子どもスタッフ会議 (まちの目標・ルール決め)
12月21日	13:00～16:00	子どもスタッフ会議 (まちにある仕事・店長の役割)
1月18日	13:00～16:00	お仕事準備シートをつくらう
2月1日	13:00～16:00	まちのレイアウト(出店場所を決めよう)・ミニかぬまマップづくり
2月15日	13:00～16:00	模擬ミニかぬまの準備活動
3月8日	13:00～16:00	制作活動・お仕事準備シートの見直し
3月15日	13:00～15:00	模擬ミニかぬま
3月27日	15:00～17:00	本番に向けて、会場準備
3月28日・29日・30日	08:30	大人スタッフ(団体構成員、ボランティア) ・子どもスタッフ集合・会場づくり
	10:00	市民登録(受付)開始 子どもがつくるまち 1. こどもの学校で、ミニかぬまのまちのしくみについて学ぶ。 2. 自分がやりたい仕事を選び、働いたお給料で好きなものを買って遊ぶ。 お給料計算の基本 20分110ペリー そのうち10ペリーを税金として、銀行が差し引き100ペリーが支給される。
	15:00	1日終了・清掃・子どもスタッフの反省会
	16:00	子どもスタッフ解散・大人スタッフの反省会
	17:00	解散

特に工夫した点

- ①子供スタッフの準備活動日は、必ず仲間づくりを目的としたアイスブレイクを実施しました。
- ②子供スタッフは、最初にまちの目標を決め、次に目標を達成するために必要なまちのルールを考えました。
- ③納税のしくみを取り入れ、まちづくりに活用しました。
- ④準備活動で、スタッフだけの模擬を実施しました。特に、店長は実際にスーパーで品物の仕入れを行い、アルバイトに仕事を教える体験をして本番に備えました。
- ⑤参加者の申込受付には往復はがきを活用しました。当日、参加者は返信用はがきを持参し、はがきを回収することで受付がスムーズに行えました。

活動の成果

- ①事業を3日間に延長したこともあり、参加者は過去最高の1,119人になりました。また、子供店長は、達成感と充実感が前年度より増したように感じました。
- ②みんながハッピーな「ミニかぬま」になるように、子供スタッフが考えたまちのイベント「ビンゴ大会」や「じゃんけん大会」などを、初めて実施したところ大変好評でした。

活動の課題

- ①子供への対応が大人スタッフによって異なる場面があったため、全員が事前に子供との関わり方を学ぶ必要があると感じました。
- ②会場のコンセン特的数が少なかったため、子供たちのやりたい活動ができないこともありました。次回事業を実施するときには会場を選ぶ段階で気をつけるようにしたいです。

団体概要

私たちは、子供たちにまちづくりの体験を通じて社会のしくみや住民自治について学ぶ機会を提供したいと思い、子育て支援NPOや学童クラブ経験者、教育関係者等が集まって、2011年に団体を立ち上げました。毎年1回「こどものまちミニかぬま」を開催するとともに、普及活動として事例発表会を年2回程度行っています。

～地球を大切に作る気持ちを 幼い時から育てよう～

海にやってきた ちゃおレンジャー

■活動期間／平成25年9月1日(日) ■活動場所／小樽市祝津海岸 茨木家中出張番屋

■募集地域／札幌市、小樽市(北海道)

■募集対象／未就学児(4～5歳)、小学生、中学生と保護者

■募集方法／チラシ(配布先:区役所、市役所、地区センター、児童会館、子育て支援センター)

■実施団体名／特定非営利活動法人ちゃお ■構成員数／11人

■連絡先／廣坂和恵 TEL 070-5607-1244 TEL・FAX 011-662-3370
E-mail npo_ciao_1_hiro@pdx.ne.jp amiami-amirin@jcom.home.ne.jp

活動のねらい

地球環境のバランスが崩れ、未来の地球に今のように住めなくなる可能性が出てきていることから、『きれいな海を取り戻したい』という純粋な子供の思いを、ずっと持ち続けてほしいと願っています。

海の中の不思議や海洋生物について子供の興味関心を広げ、より海を身近に感じ、社会奉仕の大切さと重要性を知る機会としています。

子供たちが主体的に行動したことが、周りの人から感謝されたり役に立てた喜びを感じることにつなげ、自己肯定感を高めてゆくことを願っています。



みんなで探した磯つぶ入りみそ汁

活動のポイント

プログラム	主なポイント
海岸をきれいにしよう	海岸のごみ拾い。海岸をきれいにする。拾ったお宝を使ってクラフト制作。ペットボトルで海水を集め、とうきびをゆでて食べる。
海の生き物探し	岩の下の隙間に住むカニを釣る。 磯ツブ、ヤドカリなどをケースに入れて観察する。
歴史的建造物をきれいにしよう	番屋について知る。歴史的建造物を自分たちで清掃して、これからも大切にしていきたいと感じさせる。

安全対策・健康管理

- ・事前の下見で、海沿いの活動場所や番屋は安全に遊べるかをチェックします。救急時の対応や病院も調べておきます。
- ・集合時には、視診や保護者からの聞き取りで、参加者の健康状況を把握します。虫刺されや日射病、熱中症対策を行います。
- ・集合場所から現地まで貸し切りバスで移動のため、車中安全に移動できるように注意します。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
9月1日	9:00	スタッフ、参加者集合、貸し切りバスにて移動
	9:30	自己紹介
		当日の流れ、注意事項、連絡事項
		アイスブレイク
	10:30	現地到着
		グループに分かれる。
		講師・スタッフ紹介 安全指導
		海岸へ移動 海岸をきれいにしよう
		拾った漂流物展覧会 どこから流れてきたの？
		海の生き物探し (カニ 磯つぶ やどかりなど)
	12:00	昼食(炭木家中出張番屋にて)
	13:00	漂流物を使ってクラフト制作
		きれいになった海の海水を集めてきて、とうきびをゆでて食べる。
		番屋は何のための建物なのかを知る
		歴史的建造物をきれいにしよう
	14:00	ふりかえり・まとめ
		現地出発 貸し切りバスにて移動
	16:00	解散



生き物探し

特に工夫した点

『地球が大変なことになっている。このままの地球をいつまでも残すためには、何ができるのか？』をテーマに海水浴シーズンが終わったばかりの海を選び、ごみではなく、漂流物探しという探検気分で集めたごみの山と、海辺に住む小さな海洋生物観察を通して行いました。

きれいになった海水でとうきびをゆでて食べたり、漂流物を使ったクラフト制作でお宝に変身させたり、歴史的建造物である番屋について知ることから、いつまでもきれいに残したいと感じる心を育むよう工夫しました。参加者一人ひとりが主体的に活動できるようにしたことが、一番工夫したことでした。

活動の成果

海岸での活動のために、天気によって活動内容や活動班の組直しが必要になります。事前の下見や講師・スタッフでの打ち合わせをしっかりとったことで、参加者をスムーズに誘導ができました。活動のねらいを達成するために、大切にしたい経験は何か？をとらえていたことで、年齢の差が大きい参加者一人ひとりが、満足のいく活動ができたと思います。

参加者は集めたたくさんのごみの山を見て、このままでは、海の生き物が暮していけないことを実感していました。家族で参加することによって、自然環境の保護を考えるきっかけにもなりました。

活動の課題

海岸での活動のために、天気や気温、波などにより活動が安全に行えるか検討することがたくさんありました。

講師選定や協力してもらえる活動場所の情報が少なく、大変でした。

団体概要

地域での子育て応援や、就園前の幼児教室、地域での生涯発達教育の推進を目指して、2002年6月に設立し、個を大切にしながら生き生きと生きていくために、人と人とのふれあい関わりあえる事業を行っております。私たちは子供の興味関心を広げ、遊びから学びへとつながるような活動を実施し、持続可能な街づくりを目指して、小さなときから環境を大切にする気持ちを育てたいと考えています。

構成員は30代から50代の専門スキル（幼稚園教諭、保育士、ケアマネージャー、フリーライター、会社員など）を持った仲間が活動しています。

おしごとなりきり道場

- 活動期間／2月16日(日) ■活動場所／文化ファッションインキュベーション
 ■募集地域／東京都渋谷区を中心とした近隣地域
 ■募集対象／未就学児(3～6歳)～小学生
 ■募集方法／◆チラシ(配布先:渋谷区内小学校) ◆その他(インターネット情報サイト)
 ■実施団体名／夢★らくぞプロジェクト ■構成員数／14人
 ■連絡先／TEL 03-3458-0462 E-mail info@rakuza.jpn.com HP <http://www.rakuza.jpn.com>

活動のねらい

未就学児から小学生までの子供を対象に、身近なおしごとやあこがれの
 おしごとを、ワークショップやロールプレイングをしながら時間割形式で
 体験できる職業体験型イベントです。将来の夢を意識しはじめた子供たち
 に、仕事の魅力を伝え気づきを与えることで、未来に夢と希望をもつ力であ
 る「夢を描く力」とそれを達成する力である「夢を実現するための基礎
 力」を鍛え、「将来の夢をデザインする」＝「夢★デザイン」をしていく
 ことを目的としています。

職業体験を通して、世の中には魅力的な職業がたくさんあることを知っ
 てほしい、将来の自分の可能性を広げてほしいと願って活動しています。

また、職業体験の経験が、将来仕事を選択する際の納得感、仕事に対す
 る誇りや責任にもつながると考えています。さらには、社会の様々な職業
 を尊重する心を育むことを目指しています。



フラワーデザイナーの体験

活動のポイント

プログラム	主なポイント
おしごとプロによる 本格的な体験内容	それぞれのおしごとで活躍しているプロフェッショナルが講師となり、実践的かつ本格的な おしごと体験を提供します。
ステップアップ・ システム	おしごとごとに初・中・上級のステップアップ・システムを導入しているため、興味をも ったおしごとを段階的に体験することができ、継続的な成長を促しています。
インプットとアウト プットの両面アプローチ	おしごとの知識や講師の体験談などが得られる「インプット」とワークショップやロール プレイングなど自ら取り組む「アウトプット」の両面からアプローチし、子供たちはより 理解を深めることができます。

安全対策・健康管理

- ・講師、スタッフには、事前に運営マニュアルを配布し、事件・事故が発生した場合の対処方法や緊急連絡先を明示しています。
- ・参加者は全員傷害保険に加入し、体を動かす体験には補給用の水を用意したり、未就学児ではさみなどを使用する体験にはスタッフを増員するなど、体験内容に応じた対応をしています。
- ・会場の数ヶ所にアルコール消毒剤を設置します。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
2月16日	10:00～11:00	未就学児向け：プレおしごと道場「ブーケ編」
		小学1～3年生向け：ダンサー、ケーキデコレーター、メイクアップアーティスト、スタイリスト
		小学4～6年生向け：フラワーデザイナー、ジュエリーデザイナー
	11:10～12:10	未就学児向け：プレおしごと道場「ワッペン編」
		小学1～3年生向け：ダンサー、ケーキデコレーター、メイクアップアーティスト、スタイリスト
		小学4～6年生向け：フラワーデザイナー、ジュエリーデザイナー
	13:00～14:00	未就学児向け：プレおしごと道場「羊毛フェルト編」
		小学1～3年生向け：野菜ソムリエ、キャンドルアーティスト、フラワーデザイナー、ファッションデザイナー
		小学4～6年生向け：ダンサー、スタイリスト
	14:10～15:10	未就学児向け：プレおしごと道場「ブーケ編」
		小学1～3年生向け：野菜ソムリエ、キャンドルアーティスト、フラワーデザイナー、ファッションデザイナー
		小学4～6年生向け：ダンサー、スタイリスト
	15:30～16:30	未就学児向け：プレおしごと道場「ワッペン編」
		小学1～3年生向け：時計職人、キャビンアテンダント、舞台俳優、アロマセラピスト
		小学4～6年生向け：キャンドルアーティスト、ウェディングプランナー
	16:40～17:40	未就学児向け：プレおしごと道場「羊毛フェルト編」
		小学1～3年生向け：時計職人、キャビンアテンダント、舞台俳優、アロマセラピスト
		小学4～6年生向け：キャンドルアーティスト、ウェディングプランナー

特に工夫した点

おしごと体験を単なる楽しいだけの体験に終わらせず、将来のきっかけにつなげてもらうことを目指し体験の前には、そのおしごとの紹介や魅力、心構え、社会との関わりを伝える時間を設けています。また、体験した後は、体験で意識したことや体験しての感想を発表する場も設けています。

活動の成果

活動終了後に実施しているアンケートによると、約85%が「とても満足した」「満足した」と回答しており、概ね目的は達成できたと考えています。また、自由コメントにおいても、「素晴らしい体験ができた」「本人も熱心に聞き入っていた」「持ち帰った作品を自慢げに話していた」「仕事への誇りを感じ感動しました」などの意見をいただいております。普段なかなかできない貴重な体験を提供することができたのではないかと感じています。

活動の課題

ありがたいことではあるのですが、事前の申し込みが殺到するため、自分が希望するおしごと体験になかなか参加できない状態となっています。そのため、運営体制を強化することで、イベントの規模の拡大や実施回数の増加を検討する必要があるのではないかと感じています。

また、リピートでの参加者を飽きさせないためにも、おしごとの種類をさらに充実させていく重要性も感じています。



ケーキデコレーターの体験

団体概要

子供たちに様々なおしごと体験を提供することで、次世代への「夢★デザイン」を応援することを目的として、2011年4月に設立しました。現在は、2、3ヶ月に一回のペースで子ども向け職業体験イベント「おしごとなりきり道場」「和しごとなりきり道場」開催しています。そのほかにも、2014年7月より、子供が実際の職場に訪問しておしごとを体験する「おしごと弟子入り道場」をスタートさせました。2012年と2014年の2回、キッズデザイン協議会のキッズデザイン賞を受賞しました。

子どもの心を育てる「読み聞かせ講座」

- 活動期間／6月25日(火)～11月19日(火)
- 活動場所／和水町中央公民館
- 募集地域／和水町内
- 募集対象／一般成人、保護者
- 募集方法／チラシ(幼稚園・保育園3園・小学校7校・中央公民館・三加和公民館・菊水郵便局・緑郵便局・商工会 16ヶ所)
- 実施団体名／和水お話の会
- 構成員数／16人
- 連絡先／熊本県玉名郡和水町

活動のねらい

読み聞かせに関わっている人たちは、子供たちの読書活動推進の貴重な担い手です。しかし、その中には、読み聞かせに対して自信が持てず、学びの機会を求めている人も少なくありません。

このため、現在、読み聞かせをしている人や今後読み聞かせをやってみたいと思っている人などを対象に、本の選び方や実際のやり方、小道具の作り方などを学び、読み聞かせをする人たちの子供に関する理解と技能の向上を図ります。



絵本の選び方の講義

活動のポイント

プログラム	主なポイント
乳幼児・低学年の読み聞かせに適した絵本の選び方と読み聞かせの実際	乳幼児・低学年の読み聞かせに向く絵本の選び方や絵本の読み方のポイントについて学びます。実際に読み合い、講師の指導助言を受けます。
高学年の読み聞かせに適した絵本の選び方と読み聞かせの実際	高学年の読み聞かせに向く絵本の選び方や絵本の読み方のポイントについて学びます。実際に読み合い、講師の指導助言を受けます。
おはなしの中に出てくる小道具の製作とおはなしの実際	おはなしの中にでてくる小道具を数種類製作し、作った小道具でおはなしをします。

安全対策・健康管理

- ・前期は夏季の開催となるので、冷房施設の整った会場を準備します。
- ・高齢者の参加も考えられるのでプログラムの時間に余裕をもたせます。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
6月25日	講義 (120分)	①読み聞かせの意義 ②読み聞かせに適した絵本の選び方と読み方
7月9日	演習 (120分)	①乳幼児・低学年向けの読み聞かせ演習 ②講師による指導助言
7月23日	講義 (60分) 演習 (60分)	①高学年の読み聞かせに適した絵本の選び方 ②高学年向けの読み聞かせ演習 ③講師による指導助言
11月5日	講義 (60分) 製作 (60分)	①小道具を使ったおはなしの実演 ②読み聞かせにおける小道具の効果について ③小道具の製作
11月19日	講義 (60分) 製作 (60分)	①小道具を使ったおはなしの実演 ②おはなしの中で使ういろいろな小道具の紹介 ③小道具の製作 ④まとめ

特に工夫した点

- ・参加者全員が実際に演じる演習の時間を十分に確保し、一人ひとりが実際に読むことを重視しました。
- ・乳幼児・低学年・高学年の発達段階に応じた基本的な絵本の選び方、読み方の再確認を大切にしました。

活動の成果

前期は、実際に行うおはなし会の形式で講義をしていただいたので、プログラムの組み方や演じ方を学ぶことができ好評でした。演習では、各々実際に演じアドバイスもいただいたので、それぞれの技術向上につながりました。後期は小道具を製作し小道具を使った演じ方のポイントが習得でき、参加者の満足感につながりました。今回の講座も即実践できる内容で参加者に大変喜んでもらえました。次回開催への期待も大きく、参加者の学ぶ意欲も高いので、今後も技術力向上を図る講座を企画していきたいです。

カリキュラム

所要時間	項目	ねらい	内容
講義 60分	乳幼児の読み聞かせに適した絵本の選び方	乳幼児の読み聞かせに適した絵本の選び方を理解する	・読み聞かせの意義 ・読み聞かせに適した絵本の条件
演習 60分	乳幼児の読み聞かせに適した絵本の選び方の実際	読み聞かせに適した絵本を実際に読み、理解を深める	・絵本の持ち方など読み方のポイント
講義 60分	低学年の読み聞かせに適した絵本の選び方の実際	低学年の読み聞かせに適した絵本の選び方を理解する	・低学年の読み聞かせに適した絵本の条件
講義 60分	高学年の読み聞かせに適した絵本の選び方の実際	高学年の読み聞かせに適した絵本の選び方を理解する	・高学年の読み聞かせに適した絵本の条件
演習 120分	読み聞かせの実際のやり方	読み聞かせを実際に行い、読み方の技術を習得する	・絵本を実際に読みあう
講義 60分	小道具を使ったおはなし	小道具を使ったおはなしのやり方を理解する	・小道具を使ったおはなしについて
製作 120分	おはなしの中で使う小道具の製作	おはなしで使う小道具を製作する	・小道具の製作
演習 60分	小道具を使ったおはなし	小道具を使ったおはなしを実際に行い技術を習得する	・小道具を使ったおはなしを実際に行う

活動の課題

読み聞かせの経験の差による、求める内容の違いが明確になったので、次年度は初級、中級コースのプログラムも検討していきたいです。



小道具の製作



講師の実演

団体概要

- ①学校での朝読書ボランティアは活発に行われていますが、中山間地に位置する和水町は、校外での子供たちの読書環境が充実しているとは言えません。そこで、子供たちが学校外での本に触れる機会を充実させるために団体を立ち上げ、活動を始めました。
- ②この講座のほか、子育てひろばでの読み聞かせや、作家を招いての講演会、朗読と音楽の会、大人のための古典文学講座など行っています。

ようこそ、絵本の森

- 活動期間／4月29日(月)～3月9日(日) ■活動場所／冒険遊び場ちよっとバン
- 募集地域／堺市(大阪府)
- 募集対象／未就学児、小学生、中学生
- 募集方法／◆チラシ(配布先:大阪府立大型児童館ビッグバン・地域連合自治会・近隣幼稚園・保育園・小学校)
◆ポスター(掲示先:大阪府立大型児童館) ◆広報誌(泉北コミュニティ)
- 実施団体名／特定非営利活動法人子どもと遊びを育むまちづくりプロジェクトKid'sぽけっと ■構成員数／13人
- 連絡先／住所:〒530-0035大阪市北区同心2-4-25TDM302号
電話:06-6356-0345 E-mail:npo.kids.pocket@gmail.com

活動のねらい

季節や風を肌で感じながら、多くの木々に囲まれて本を読むという体験は、日常ではなかなかできない貴重なものだと思います。森という環境によって解放(リラックス)された子供たちの心や身体は、彼らの想像力や創造性をより豊かなものとし、読みかたりや読み聞かせのメッセージも深く心に響いてくるに違いありません。DS等ゲームの影響で失われつつある子供たちの読書活動への興味を少しでも取り戻し、心豊かな時間を過ごしてほしいというのがこの事業のねらいです。



この絵本、読んで下さい!

活動のポイント

プログラム	主なポイント
会場セッティング	森という環境を十分活かし、絵本が森の景色の一部となり、思わず手にとって読みたくなるような森の美術館をイメージして、セッティングをしました。また、年4回のそれぞれに特別スポットと題して、是非とも子供時代に触れて欲しい作家やテーマの絵本を並べました。
読み聞かせボランティア	子供もの読書活動に深い理解のあるボランティアが、子供たちとしっかりコミュニケーションをとりながら、個別に子供たち自身が選ぶ絵本を読み聞かせました。絵本の読み聞かせの原点を大切に守り、一人ひとりの子供が大好きな一冊に出会えるお手伝い(サポート)をしました。
よみかたりタイム	講師の先生による読み語り。絵本の内容と一緒に、絵本を紹介してくれる先生方からのメッセージも子供たちに受け取って欲しい。そして、森が子供たちに素晴らしい絵本との出会いを演出してくれることを願って、コーディネートしました。

安全対策・健康管理

- <安全対策>会場の環境整備を念入りに行い危険のないよう配慮し、また、子供たちに怪我がないようスタッフは十分注意を払うようミーティングで共有します。万一来に備え、事前に病院と連携を取ります。
- <健康管理>入園の際、参加者に季節に適した声掛けを行い、水分補給や虫よけと寒さ対策について対処し、安全と健康管理は基本的に各自で行ってもらうよう呼びかけます。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
【1日の流れ】	09:30	◆スタッフ集合 ・安全対策に関する留意事項の確認 ◆会場セッティング ・森の中に絵本やその他の備品を並べ、美術館のような絵本の森を作り上げていく。
	10:45	◆受付開始
	11:00	◆「ようこそ、絵本の森」スタート ・子どもにぜひ紹介したい特別スポットも季節に応じて設置します。
	13:00	◆講師の先生による「よみかたりタイム」 ・その時間に絵本の森に参加している全員の子どもに向けて、是非とも紹介したい先生一押しの絵本のよみかたり。
	13:30	◆先生を交えてのフリータイム
	15:00	◆絵本の森終了
【特別スポット・年間予定】		
4月29日		宮西達也先生シリーズ
7月7日		馬場のぼる先生シリーズ
10月14日		岩村かずお先生シリーズ
2月2日		田島征彦先生シリーズ及び日本の民話に関する絵本



美術館のような絵本の森

特に工夫した点

以下のことを、参加者の子供たちとの約束事とし、「絵本の森」の目的やねらいが子供自身によって実践されるよう工夫しました。

1. 森のささやきに耳を傾け、心の眼で大好きな絵本を探してみよう。
2. 読み聞かせて欲しい絵本がある時は、ちょっと勇気を出してスタッフのお兄さんやお姉さんに声をかけてね。
3. 好きな時間に来て、好きな時に帰ることができる、出入り自由な空間です。
4. 絵本の森は、みんなの場所です。絵本もみんなの物です。

みんなが気持ちよく過ごせるように心がけて下さい。
さらに、子供たちがより絵本の世界に興味をもてるように、「森のミッケ」と題したお楽しみプログラムやクラフトコーナーも設置しました。

活動の成果

生命あふれる森で、子供たちはたくさんの絵本に出会い、素敵な読み語りや優しくおもしろい読み聞かせに耳を傾けることができました。時には真剣なまなざしで、時にはひとみを閉じて、時には大声でおなかを抱えて笑いました。

今回開催させて頂いた絵本の森は、多くの絵本が子供たちをそんなステキな世界に案内してくれた至福の時間（ひととき）だったと思います。そのことは、全4回の参加者にリピーターが圧倒的に多かったことから伺えました。

活動の課題

私達は、この活動を通じて、絵本が子供の心に及ぼす影響力や奥深さに気づかされると同時に、子供たちに数多くの素晴らしい絵本を紹介したり、自然の中での空間を作り上げていくためには、さらなるスタッフのレベルアップや向上心、そして何より絵本や自然に対する愛情を育てることが、大切であると感じています。

団体概要

当会は、ボランティアが集まり1999年より遊び振興協議会という名で大型児童館ビッグバンの屋外冒険広場の運営・管理を行い、子供の外遊びや自然体験活動をサポートしてきました。2009年には、更なる社会的ニーズに応えるべく、組織、役員など体制を新しく組み直し、子供の健全育成と遊び環境の保障を行うNPOとして認可されました。

堺市（主に近隣）の子供に対しては、冒険遊び場活動の保障、自然体験活動の提供、地域の世代間交流のサポート等を行い、府下の人達に対しては、子育て支援に関するセミナーの開催やワークショップ、キャンプといった活動を展開しています。

連続講座 絵本を学ぶ・絵本を楽しむ

「アメリカ絵本の黄金時代2」「アメリカ絵本の黄金時代3」

■活動期間／5月19日(日)～6月29日(日)

■活動場所／山梨県男女共同参画推進センターびゅあ総合

■募集地域／山梨県全域 ■募集対象／一般成人

■募集方法／◆チラシ(配布先:県内公共図書館、読書ボランティアグループ、当法人会員など)
◆ポスター(掲示先:県内公共図書館) ◆ホームページや新聞に掲載

■実施団体名／NPO法人山梨子ども図書館 ■構成員数／7人

■連絡先／山梨県甲府市古府中町4922-11 NPO法人山梨子ども図書館
TEL・FAX055-283-3340(齊藤) http://www.geocities.co.jp/y_kodomo_lib/
e-mail y-kodomotoshokan@excite.co.jp

活動のねらい

子供の読書を推進するには、子供の読書環境を整え、子供のそばに子供の本について良く知っている大人がいることが大切です。講師の吉田新一氏は、絵本の魅力について非常に広い知識を持っておられます。この講座を通して、図書館司書や読書ボランティア、子供の保護者など子供と本をつなぐ立場にある大人たちが、絵本について深く学び、絵本の真の魅力を子供たちに伝えられるような知識と力を身に付けることを目的とします。特に、子供のための絵本の選書や読み聞かせ、絵本の紹介などに効果が期待されます。



アメリカ絵本の黄金時代2 講演会風景

活動のポイント

プログラム	主なポイント
アメリカ絵本の黄金時代 2 マーシャ・ブラウン バーバラ・クーニー	黄金時代のアメリカの絵本、マーシャ・ブラウンとバーバラ・クーニーの作品について、実際に絵を見ながら講義をしていただき、絵本についての知識を深め、絵本の魅力を知り、絵本の見方を学ぶ。
アメリカ絵本の黄金時代 3 エズラ・ジャック・キーツ マーガレット・ワイズ・ブラウン	黄金時代のアメリカの絵本エズラ・ジャック・キーツとマーガレット・ワイズ・ブラウンの作品について、実際に絵を見ながら講義をしていただき、絵本についての知識を深め、絵本の魅力を知り、絵本の見方を学ぶ。

安全対策・健康管理

大人の催しであるので、特に危険はないと考えましたが、避難経路の確認と会場の換気などに注意しました。また、2回目は暑い時期なので、室温の管理に気をつけました。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
5/19	10:00	開会 理事長挨拶、講師紹介
	10:10	講演 『絵本を学ぶ・絵本を愉しむ アメリカ絵本の黄金時代2 1、マーシャ・ブラウン』
	12:00	休憩
	13:00	講演 『絵本を学ぶ・絵本を愉しむ アメリカ絵本の黄金時代2 2、バーバラ・クーニー』
	14:50	質疑応答
	15:00	閉会
6/29	10:00	理事長挨拶、講師紹介
	10:10	講演 『絵本を学ぶ・絵本を愉しむ アメリカ絵本の黄金時代3 1、エズラ・ジャック・キーツ』
	12:00	休憩
	13:00	講演 『絵本を学ぶ・絵本を愉しむ アメリカ絵本の黄金時代3 2、マーガレット・ワイズ・ブラウン』
	14:50	質疑応答
	15:00	閉会

特に工夫した点

講師の吉田新一氏が、絵本の絵をスクリーンに大きく映しながら、絵本に対する情熱をいきいきとした語り口で語ってくださるので、参加者全員がスクリーンや講師を見やすいように設定しました。取り上げられた絵本が実際に手に取ってみられるよう、作家の絵本をできるだけ多く展示しました。

また、講師が用意してくださった資料がたくさんあったので、作家ごとに見やすい形で綴じ、保存としても使えるよう配慮しました。

活動の成果

アメリカ絵本の黄金時代を築いたマーシャ・ブラウンとバーバラ・クーニー、エズラ・ジャック・キーツとマーガレット・ワイズ・ブラウンの4人の絵本作家の絵をパワーポイントで見ながら、絵の見方、簡潔な文章の美しさは元より、作家の生い立ちやその絵本が生まれた背景、技法など、詳しく解説していただき、絵本の楽しさをより深く体験することができました。

今後、子供たちの読書推進活動を進める上で、絵本の感動や喜びをより多く伝えることができると考えます。

図書館や学校図書館での絵本の選書や読書ボランティアの読み聞かせの絵本の選び方に効果が期待できます。

活動の課題

非常に質の高い内容の講演で、参加者全員が満足していましたが、参加者数が目標に達せず、今後は効果的な広報に取り組んでいくことが課題です。



画像を見せながら熱心に語りかける吉田新一講師

団体概要

- ① NPO 法人山梨子ども図書館は、2005年3月、近年の子供たちの文化的環境の貧困を背景に、山梨県内の子供の読書環境を整えるために早急に行動を起こす必要を感じ、子供と本のよい出会いを願って設立された。会員数は約100名。(個人会員、団体会員含む)
- ② 子供たちの読書をガイドしていく大人の養成を急務と考え、子供の本について十分な知識と理解をもち、子供に的確に本を紹介することのできる大人を養成することを主な目的として活動しています。人材育成のための「子どもの本の専門家」養成講座(年間20回)を中心に、児童文学講座などを開催しています。

また、図書館や学校、幼稚園などに、教師や保護者、読書ボランティアなどを対象とした読み聞かせ講座や絵本講座に講師を派遣しています。

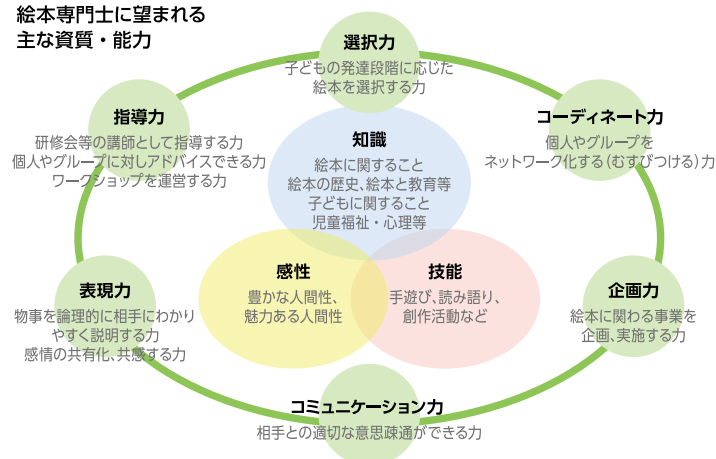
絵本専門士養成講座

絵本専門士（絵本のスペシャリスト）とは

絵本のメディアの特性やさまざまな可能性をよく理解し、幅広い知識と教養を備え、絵本の魅力を表現し伝える技能を持ち、子供の好奇心と生きる力を引き出す絵本の専門家であり達人です。

絵本に秀でた絵本専門士は、絵本に関する総合プロデュース力を身につけ、人類の知恵と英知を結集した絵本の普及をめざす事業を企画・実施し、それを指導する役割を担うことが期待されます。

絵本専門士に望まれる
主な資質・能力



『絵本専門士』養成制度の創設

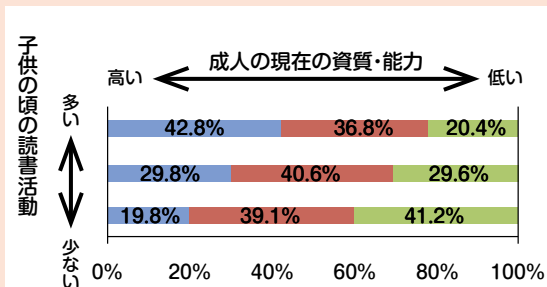
子供の読書活動については、家庭、地域及び学校等における取組や環境の整備が進んでいます。

一方で、1か月に1冊も本を読まない子供の割合は依然として高く、「子ども読書活動推進計画」の策定状況など地域間の差が顕著となるなど、子供の読書活動及びその推進体制に関しては課題も見られるところです。

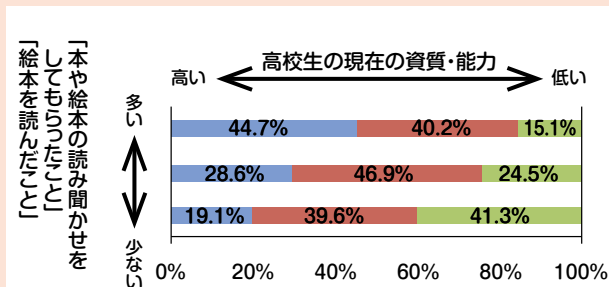
また、読書活動が子供の成長に及ぼす影響については、独立行政法人国立青少年教育振興機構の「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究報告書」（平成25年2月）において、子供の頃の読書活動が多い大人ほど、未来志向や社会性などの意識・能力が高いというデータが示されています。

このような子供の読書に係る現状等を踏まえ、平成26年2月、絵本専門士養成制度準備委員会（現絵本専門士委員会）において、絵本のスペシャリストの養成について提言がなされました。

子供の頃の読書活動と現在の意識・能力（成人）



子供の頃の読書活動と現在の意識・能力（高校生）



出典: (独)国立青少年教育振興機構「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究報告書」（平成25年2月）

絵本の魅力と可能性を伝えるスペシャリスト

絵本専門士養成講座

絵本専門士養成講座は、絵本専門士委員会が策定するカリキュラムと修了課題により構成されます。

カリキュラムは、絵本に関する事業の企画・実施や指導などを行う絵本専門士として備えるべき能力を修得させるために必要な内容を、十分に盛り込んだものとしています。具体的には、絵本や子供に関する知識、おはなし会やワークショップを運営する技能を身に付け、豊かな感性を育むことを目的とし、50時間以上の授業時間を確保することとしています。また、絵本に関わる多様な領域の専門家や実践家を講師とし、講義、演習等の様々な形態で、少人数の受講者に密度の高い授業を実施することを特長としています。修了課題は、全ての授業を受講した後、絵本専門士として必要な資質・能力を備えているかどうか確認するため、レポート等の方法で実施されます。

授業の履修結果と修了課題の可否を併せて、絵本専門士養成講座の修了について審査します。

受講資格 ◆定員30名

- 子供や絵本に関連のある資格を有する者
- 絵本に関わる実務について、原則として3年以上の経験がある者
- 絵本に関わる活動に携わり、原則として3年以上の経験がある者
- 絵本や児童文学について研究している者
- もしくは同等の資格、実務経験(勤務経験)を有する者

実施会場

国立オリンピック記念青少年総合センター 等
(東京都渋谷区代々木神園町3-1)

受講料

50,000円

絵本専門士養成講座

～絵本専門士に必要な知識等を修得する～
養成講座カリキュラム(30コマ程度の授業)
・
～絵本専門士に必要な資質・能力を測る～
修了課題(レポート等)

認定審査

認定

絵本専門士

絵本専門士養成講座カリキュラム骨子 (第1期)

分野	科目	授業数
知識	絵本総論	5
	知っておきたい絵本	3
	絵本と出会う	3
技能	絵本の世界を広げる技術	3
	絵本を紹介する技術	3
	おはなし会の技術	2
感性	絵本の持つ力	1
	心に寄り添う絵本	1
	絵本と空間	1
	子どもの感性に学ぶ	1
	絵本と大人の感性	1
	ホスピタリティに学ぶ	1
	絵本が生まれる現場	2
	オリエンテーション	1
ディスカッション		2
合 計		30

【第1期】

募集定員：30名 授業：30コマ(50.5時間)

※1授業は90～120分

絵本専門士養成講座に関するお問い合わせ先

絵本専門士委員会事務局(独立行政法人国立青少年教育振興機構 教育事業部事業課事業係)

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

TEL: 03-6407-7685 FAX: 03-6407-7699

親子で楽しむ山登り

■教材名／親子で楽しむ山登り

■実施団体名／公益社団法人 日本山岳会（東京都千代田区四番町5番4）ホームページURL <http://www.jac.or.jp>

■担当者連絡先／永田弘太郎

TEL:03-5285-7444（勤務先） FAX:03-3208-6825（勤務先） E-MAIL:nagata@hon-s.co.jp

■教材の入手先／URL <http://www.jac.or.jp/oyako>

教材利用のポイント

家族の安全で楽しい登山の普及を目指します。またそれに伴う親子登山者ならびに指導者への安全対策を啓蒙します。さらに、日本列島の山の素晴らしさを紹介し、親子が興味を持って山の自然・文化に接するような内容にしました。



登山のノウハウ等が大蔵会員のキャラクターで説明されます。



トップページには日本地図から全国の親子登山コースを選択出来るように配置しました。



全国32山の親子登山コースを地図や写真入りで紹介されています。

教材の概要

I. 教材開発の背景とねらい

山登りは、子供たちの「生きる力」を育み、豊かな心や健やかな体を育成する上でまたとない機会を提供してくれます。安全で楽しい登山を行うため、子供だけではなく親や指導者にも有効な親子登山の普及のための基本的なWebサイトを構築しました。

II. 利用対象

小中学生を中心とした親子や孫子などの家族登山者や子供登山を行う引率者を対象にしています。また、登山初心者にも利用してもらいたいと考えています。

III. 内容

「登山おすすりコース」：親子で登るのにふさわしい全国32の山の登山コースを地図、写真、文章で紹介。また、山の自然や文化にも興味をもってもらえるように、クイズなどを用意しました。今年度は100コースに増やす予定です。

「山の学校」：全国で行われている親子登山教室を紹介しています。

「家族でハイキング」：実際に親子で登っている方々に登場していただき、親子登山の事例を紹介しています。

「山を知ろう」：親子登山のノウハウや安全対策のほか、地図の読み方、天気の見方、登山計画の立て方など、登山に必要な知識を掲載しています。

「山はあもしろい」：親子と一緒に山に興味を持ってもらうために、山の妖怪事典や山の本の紹介、山に関するクイズ、山ごはんのレシピなどを紹介しています。

団体プロフィール

1905年創設。会員数約5,100名、全国32支部を有する日本で最も歴史ある山の団体です。100年余にわたって登山の普及に指導的役割を果たし、また、安全登山の指導や山に関する文化活動や環境保全など社会貢献活動を行っています。「山の日」制定にも尽力をしました。

平成25年度助成活動で開発された教材一覧

団体名	活動名	教材URL
公益社団法人 日本山岳会	親子で楽しむ山登り	http://www.jac.or.jp/oyako/
特定非営利活動法人 おやじりんく	発達特性を理解する「にんとくサイト」	http://www.oyajilink.net/nintalk/
教育クラウド推進協議会	色と光のおもしろ実験アトリエ	http://www.edu-c.org/
音楽工房凜	おきなわユイユイ子どもうたの世界 ―うたで遊び うたで結ぶ―	http://okinawa-yuiyui.net/
特定非営利活動法人 蓼科・ハケ岳国際自然学校	キッズのわくわく冒険キャンプ ―野外体験で、生きる知恵とワザを身につけよう！―	http://waku2-camp.info/
特定非営利活動法人 STAND	みんなのスポーツ	http://min-spo.com/
一般社団法人 TAO Factory	つなげよう おきなわ昔あそび	http://mukashiasobi.okinawa.jp/
公益財団法人 オイスカ	世界の国の森のおはなし ―世界「子供の森」探検ツアー―	http://animalconference.com/oisca/world/
一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団	ネットで体験！絵本づくりワークショップ	http://www.justice.co.jp/dokidoki/
公益財団法人 学習ソフトウェア情報研究センター	伝えよう日本の伝統芸能「はじめての雅楽」	http://www.gakujoken.or.jp/gagaku-shidou/
全国視聴覚教育連盟	ボディスラップ おもしろリズムをつくろう！	http://www.zenshi.jp/bodyslap/index.html
特別支援教育デザイン研究会	特別支援教育「すぐに使える！プリント+ビデオクリップ」―ソーシャルネットワークでつながる教材作成と支援―	http://sn1.e-kokoro.ne.jp/



子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ ー申請までの流れー

子どもたちのために体験や読書の機会をつくりたい…と思ったら

企画立案はどうすれば…

「どんな活動があるのかな？」

→子どもゆめ基金ガイド2014を読んで、これから企画する活動の参考にしてみましょう。

◎過去の子どもゆめ基金ガイドもホームページからご覧になれます。

URL : <http://yumekikin.niye.go.jp/download/index.html>

実際に申請してみたい…

「子どもゆめ基金のことがもっと知りたい！」

→子どもゆめ基金募集説明会に参加してみませんか？

◎毎年9～11月にかけて全国10都市以上で実施しています。平成26年度は、東京・盛岡・名古屋・京都・岡山・福岡などで実施予定です。会場では、申請のガイダンスや個別質問回答コーナーを設けています。会場の詳細はホームページの注目情報からご確認ください。

URL : <http://yumekikin.niye.go.jp/>

◎さらに、申請にあたってわからないことや相談したいことがあれば、子どもゆめ基金までご連絡ください。
(メールでのお問い合わせ : yume@niye.go.jp)

募集期間と活動の実施日は？

「子どもゆめ基金の募集期間」 ※郵送の場合、消印有効となります。

一次募集期間	郵送	平成26年10月1日(水)～12月3日(水) 消印有効
	電子申請	平成26年10月1日(水)～12月5日(金) 17:00締切
二次募集期間	郵送	平成27年5月1日(金)～6月24日(水) 消印有効
	電子申請	平成27年5月1日(金)～6月26日(金) 17:00締切

※1 市区町村規模・申請額50万円以下(様式B)のみとなります。

※2 直接持参する場合は、平日(土日祝除く)9:00～17:45まで受け付けます。

募集案内や申請書は、子どもゆめ基金ホームページからダウンロードできます。従来の郵送による申請に加え、電子申請システムを利用した申請も可能です。一度電子申請で手続きをとると、実績報告書の作成や次回以降の申請も簡単にできます。



日中韓子ども童話交流事業

● 事業の概要 ●

日中韓子ども童話交流事業は、日本・中国・韓国の子供たちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知ってもらうとともに、相互理解と友情を深めることを目的として、2002年の「日中韓国民交流年」を機に日本で開始しました。

第9回目を迎える2011年からは3カ国による巡回開催となり、2013年は3年ぶりに日本での開催となりました。参加者は、小学校4年生から6年生の児童100名（日本34名、中国33名、韓国33名）で、8月17日～23日の6泊7日の日程で実施しました。

会場は、「ごん狐」や「手袋を買いに」等の名作を残した童話作家・新美南吉氏が生誕100年を迎えることから、それを記念して南吉のふるさとである愛知県を主な会場としました。

今回のテーマは「夢」です。子供たちは、1週間の交流の中でそれぞれの夢を描き、共に語り合い、世界で一つだけの創作絵本づくりに挑戦しました。

● 事業の内容 ●

8月17日に3カ国の子供たちが、東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターに集合しました。初日は、自己紹介やオリエンテーションの他に、班旗の作成に取り組みました。自己紹介では、それぞれの班の中で将来の夢を発表しました。

翌18日には、上野にある国際子ども図書館を訪問し、自国や各国の絵本を手にとって読んだり、先輩たちの創作絵本も読むことができました。午後からは3カ国に伝わる童話の読み聞かせを行い、3カ国の共通点や違いなどを話し合いました。夕方には結団式が行われ、河村建夫日中韓子ども童話交流事業実行委員会委員長を始め、中国や韓国大使館からの激励を受け、子供たちは事業の目的を理解し、絵本づくりに取り組む意欲を高めました。夜には、KONISHIKIコンサートが行われ、会場は大盛り上がりで日本・中国・韓国の子供たちは仲良くなっていました。

3日目には、新幹線で愛知へ移動しトヨタテクノミュージアム産業技術記念館を訪問しました。ここでは、ト

世界に一つだけの創作絵本

3カ国の子供たちが、3～4名の男女混成の10名で構成する10班に分かれ、「夢」をテーマに、グループで協力してキャラクターを考え、物語を創っていきます。みんなの夢や活動で体験したことを取り入れながら相談し、一人1ページを担当して物語と絵を仕上げて、10人の友情と夢が詰まった創作絵本を完成させました。



日本



中国



韓国



トヨタ産業技術記念館のロボット演奏に、おどろき感激

ヨタ織り機の説明から、自動車の開発や最新型ロボットの見学を通して豊田佐吉氏がものづくりに描いた夢を学びました。夜は、川口淳一郎氏（宇宙航空研究開発機構シニアフェロー）から講演いただき、「はやぶさ」開発と宇宙への果てない夢を聞きました。

4日目には、この事業のメインとなる童話作家・新美南吉氏の出身地である半田市を訪れました。南吉の母校である岩滑小学校の6年生が、多くの作品の舞台となった故郷を案内してくれました。新美南吉記念館見学や「ごんぎつね」の読み聞かせ、学芸員による説明を通して、南吉の童話に託した夢に触れていきました。

子供たちの絵本づくりでは、「夢」をテーマに、オリジナルのキャラクターが織りなす友情や冒険などを素材として、一人1ページを担当しグループ全員で協力して

完成させました。

「夢の宇宙旅行2113」や「夢のカメラ」など、独創性あふれる世界に一つだけの絵本を手に、グループ毎に発表を

行いました。自分が担当したページを大きな声で元気に発表し、ユニークな発想と意外な物語の展開に、会場は驚きと笑い声に包まれました。

最終日の解散式では、OBが「未来交流ゆめマップ」の発表を行うとともに、各国の子供たちが感想や宣言文を発表しました。その後、交流の旗が来年の開催地である中国の子供代表に手渡されました。涙を流しながら別れを惜しみ、9年後の再会を誓い合っていました。



みんなの前で、創作絵本の発表をする子供たち



自分が担当した絵本のページが完成！

日中韓子ども童話交流事業第2回OB交流会

第2回（2004年）の参加者を対象としたOB交流会を日中韓子ども童話交流事業と同じ日程で開催しました。今回は、中国・韓国両国の協力を得てOB29人が集まり、3カ国の友好発展のための「未来交流ゆめマップ」づくりを行いました。

9年ぶりに会う人がほとんどであり、最初はぎこちない様子でしたが、事業が始まると昔を思い出し、次第に仲良くなっていきました。途中、養老孟司氏の講演「共に生きること」や未来交流ワークがあり、子供たちと別に活動をして、日中韓の今後の交流の在り方について議論しました。

最終日の成果発表会では、日中韓3カ国による東アジア共同体（EAU）構想や3カ国の交流を促進するドリムセンターの設置、日中韓子ども童話交流を支えるOB組織の充実の3プランが発表されました。



友好発展に向けた「未来交流ゆめマップ」を発表

申請・採択状況

(8月1日現在)

平成26年度 活動区分別申請・採択状況

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	3,755	3,447	1,394,512
子どもの読書活動	521	449	164,981
教材開発・普及活動	42	11	76,181
合 計	4,318	3,907	1,635,674

平成25年度 活動区分別申請・採択状況

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	4,011	3,042	1,284,878
子どもの読書活動	571	463	165,799
教材開発・普及活動	64	12	88,443
合 計	4,646	3,517	1,539,120

平成26年度 都道府県別申請・採択状況

(単位：件)

都道府県	活動区分	申請	採択
北海道	体験活動	199	197
	読書活動	20	14
青森県	体験活動	27	24
	読書活動	2	1
岩手県	体験活動	30	23
	読書活動	8	7
宮城県	体験活動	42	38
	読書活動	6	6
秋田県	体験活動	27	25
	読書活動	3	3
山形県	体験活動	37	33
	読書活動	0	0
福島県	体験活動	59	51
	読書活動	9	6
茨城県	体験活動	48	45
	読書活動	5	5
栃木県	体験活動	42	39
	読書活動	11	8
群馬県	体験活動	58	54
	読書活動	5	5
埼玉県	体験活動	132	115
	読書活動	9	9
千葉県	体験活動	167	152
	読書活動	14	13
東京都	体験活動	591	560
	読書活動	81	70
神奈川県	体験活動	125	113
	読書活動	23	16
新潟県	体験活動	76	70
	読書活動	6	5
富山県	体験活動	15	14
	読書活動	0	0

都道府県	活動区分	申請	採択
石川県	体験活動	47	45
	読書活動	6	6
福井県	体験活動	36	34
	読書活動	6	5
山梨県	体験活動	44	40
	読書活動	5	4
長野県	体験活動	81	71
	読書活動	7	7
岐阜県	体験活動	60	55
	読書活動	5	5
静岡県	体験活動	91	83
	読書活動	13	12
愛知県	体験活動	148	134
	読書活動	18	13
三重県	体験活動	28	25
	読書活動	5	5
滋賀県	体験活動	46	43
	読書活動	12	12
京都府	体験活動	76	69
	読書活動	9	8
大阪府	体験活動	332	304
	読書活動	44	40
兵庫県	体験活動	177	161
	読書活動	16	11
奈良県	体験活動	57	51
	読書活動	9	8
和歌山県	体験活動	53	46
	読書活動	4	4
鳥取県	体験活動	5	5
	読書活動	1	1
島根県	体験活動	18	18
	読書活動	10	10

都道府県	活動区分	申請	採択
岡山県	体験活動	65	53
	読書活動	10	9
広島県	体験活動	40	29
	読書活動	5	4
山口県	体験活動	27	23
	読書活動	8	7
徳島県	体験活動	47	45
	読書活動	5	4
香川県	体験活動	30	27
	読書活動	5	4
愛媛県	体験活動	56	50
	読書活動	6	3
高知県	体験活動	37	34
	読書活動	4	2
福岡県	体験活動	150	147
	読書活動	35	29
佐賀県	体験活動	16	15
	読書活動	2	2
長崎県	体験活動	24	23
	読書活動	5	5
熊本県	体験活動	66	60
	読書活動	28	25
大分県	体験活動	35	32
	読書活動	3	3
宮崎県	体験活動	46	43
	読書活動	15	15
鹿児島県	体験活動	114	106
	読書活動	17	17
沖縄県	体験活動	28	23
	読書活動	1	1

子どもゆめ基金へのご協力を

子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う子供の体験活動や読書活動などの振興を図り、子供の健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からのご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することになっています。

下記の募金口座にて募金を受付しております。広く皆様のご理解とご支援を何卒お願い申し上げます。

なお、子どもゆめ基金に対するご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

振替口座

口座番号	00150-5-371382
口座名義	子どもゆめ基金

※振込に便利な振替払込書在中に綴じておりますので、ご利用ください。

銀行口座

銀行名	三菱東京UFJ銀行	渋谷支店
口座番号	普通預金3025103	
口座名義	子どもゆめ基金	

子どもゆめ基金への支援

検索

「子どもゆめ基金」へ寄附いただいた皆様

平成25年度に「子どもゆめ基金」へご寄附いただいた主な方々です。

(あいうえお順・敬称略)

株式会社伊藤園	特定非営利活動法人思いをつなぐ会
特定非営利活動法人子ども文化ステーション	シンソー印刷株式会社
曾我部 國久	東京コカ・コーラボトリング株式会社
特定非営利活動法人日本子守唄協会	特定非営利活動法人八王子市レクリエーション協会
株式会社八洋	株式会社明和サービス
森田 秀作	ライフカード株式会社

子どもゆめ基金ガイド2014

2014年9月発行

編集 独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部

発行 独立行政法人国立青少年教育振興機構
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

電話 0120-579081 (フリーダイヤル)

URL <http://yumekikin.niye.go.jp/>

E-mail yume@niye.go.jp

教育施設一覧

当機構の全国28施設は、それぞれの地域の立地を活かした様々なプログラムを提供し、多くの青少年の体験活動を支援しています。

国立青少年交流の家

- 1 国立大雪青少年交流の家 (北海道美瑛町)
- 2 国立岩手山青少年交流の家 (岩手県滝沢市)
- 3 国立磐梯青少年交流の家 (福島県猪苗代町)
- 4 国立赤城青少年交流の家 (群馬県前橋市)
- 5 国立能登青少年交流の家 (石川県羽咋市)
- 6 国立乗鞍青少年交流の家 (岐阜県高山市)
- 7 国立中央青少年交流の家 (静岡県御殿場市)
- 8 国立淡路青少年交流の家 (兵庫県南あわじ市)
- 9 国立三瓶青少年交流の家 (島根県大田市)
- 10 国立江田島青少年交流の家 (広島県江田島市)
- 11 国立大洲青少年交流の家 (愛媛県大洲市)
- 12 国立阿蘇青少年交流の家 (熊本県阿蘇市)
- 13 国立沖縄青少年交流の家 (沖縄県渡嘉敷村)

国立青少年自然の家

- 1 国立日高青少年自然の家 (北海道日高町)
- 2 国立花山青少年自然の家 (宮城県栗原市)
- 3 国立那須甲子青少年自然の家 (福島県西郷村)
- 4 国立信州高遠青少年自然の家 (長野県伊那市)
- 5 国立妙高青少年自然の家 (新潟県妙高市)
- 6 国立立山青少年自然の家 (富山県立山町)
- 7 国立若狭湾青少年自然の家 (福井県小浜市)
- 8 国立曾爾青少年自然の家 (奈良県曾爾村)
- 9 国立吉備青少年自然の家 (岡山県吉備中央町)
- 10 国立山口徳地青少年自然の家 (山口県山口市)
- 11 国立室戸青少年自然の家 (高知県室戸市)
- 12 国立夜須高原青少年自然の家 (福岡県筑前町)
- 13 国立諫早青少年自然の家 (長崎県諫早市)
- 14 国立大隅青少年自然の家 (鹿児島県鹿屋市)

国立オリンピック記念
青少年総合センター
(東京都渋谷区)

